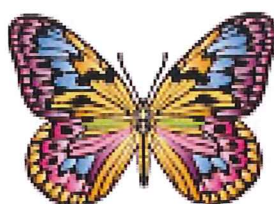


カリキュラムガイダンス

授業科目概要



令和6年度

1年生（15回生）

あさくら看護学校

令和6年度 教職員氏名一覧

名称	氏名	担当領域
校 長	田 邊 庸 一	
副 校 長	瓜 生 知佳子	
学校担当理事	草 場 信 秀	
健康管理医	安 永 祐三	
教務主任	堀 内 幸 代	基礎看護学
実習調整者（1・2年生）	伊 藤 哉 女	成人看護学
実習調整者（3年生）	池 田 陽 子	看護の実践と統合
実習調整補	馬 場 若 美	小児看護学
専 任 教 員／1年生担任	林 利 奈	老年看護学
専 任 教 員／1年生担任	江 田 万理子	基礎看護学
専 任 教 員／1年生担任	熊 添 智 春	基礎看護学
専 任 教 員／2年生担任	佐々木 京子	地域・在宅看護論
専 任 教 員／2年生副担任	朝 倉 美弥香	母性看護学
専 任 教 員／3年生担任	皆 元 謙 治	精神看護学
専 任 教 員／3年生副担任	中 野 弘 貴	成人看護学
実 習 指 導 教 員	中 原 彩 実	教員相談担当
事 務 長	吉 田 真 仁	
事 務	鳥 越 恵 理	
事 務	古 谷 美菜子	
事 務	養 父 ミキ	
図 書 司 書	本 田 清 子	

目 次

はじめに	・ ・ 1 ～ 3
教育理念・教育方針・教育目的	・ ・ ・ 4～7
学年目標	・ ・ ・ 8～9
授業科目のねらい	・ ・ ・ 10～11
基礎分野	・ ・ ・ 12～14
専門基礎分野	・ ・ ・ 14～16
専門分野	・ ・ ・ 16～26
臨地実習	・ ・ ・ 27～30
学年歴	・ ・ ・ 31
教育内容別、教科外活動時間数	・ ・ ・ 32
【基礎分野】	・ ・ ・ 33～38
論理的思考	・ ・ ・ 33
物理学	・ ・ ・ 34
哲学	・ ・ ・ 35
心理学	・ ・ ・ 36
発達心理学	・ ・ ・ 37
組織論	・ ・ ・ 38
【専門基礎分野】	・ ・ 39～ 57
解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	・ ・ ・ 39～42
生化学	・ ・ ・ 43
病理学	・ ・ ・ 44
微生物学	・ ・ ・ 45～46
疾病と治療Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	・ ・ ・ 47～51
薬理学	・ ・ ・ 52～53
栄養学	・ ・ ・ 54
看護臨床判断の基礎	・ ・ ・ 55
医療と社会	・ ・ ・ 56～57
【専門分野】	・ ・ 58～100
看護学概論Ⅰ	・ ・ ・ 58～59
基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ	・ ・ ・ 60～65
日常生活援助技術Ⅰ・Ⅱ	・ ・ ・ 66～69
診療に伴う技術Ⅰ・Ⅱ	・ ・ ・ 70～73
看護研究の基礎	・ ・ ・ 74
地域・在宅看護概論Ⅰ	・ ・ ・ 75
精神看護学概論	・ ・ ・ 76～77
成人看護学概論	・ ・ ・ 78～79

母性看護学概論	．．． 80～81
小児看護学概論	．．． 82～85
看護的思考の基礎	．．． 86
医療安全	．．． 87～88
看護倫理	．．． 89
地域・在宅看護論実習Ⅰ	．．． 90～92
基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	．．． 93～100

はじめに

学習をはじめるにあたって、本校では何をどのように学ぶのかについて説明したいと思います。

すべての看護活動は、健康の保持・増進及び回復のため、あるいは死のために行うものです。看護学は「看護の対象としての人間」や「看護を行う場」を中心にすえ、技術や看護過程等の方法論を学びます。

学生の皆様が生涯にわたって必要な素地と発展性にかかわる能力の修得を目指しています。

3年間で修得する科目は91科目で103単位です。

内訳は、基礎分野 15科目－15単位 専門基礎分野 21科目－22単位

専門分野 42科目－43単位 でありこの中に臨地実習を含みます。

図 I

カリキュラムデザイン

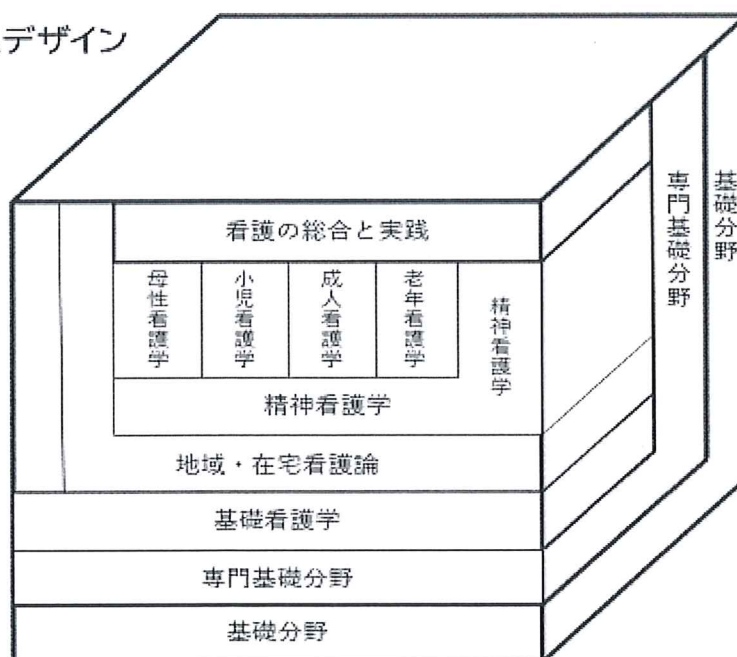


図 I の各分野の構成を参照に説明します。

基礎分野 **専門基礎分野**

看護学は、人間を対象とする実践の科学です。それに役立つ人文、社会、自然科学の関連項目を看護学のニーズから幅広く設定しています。その科目と内容は、すべての看護学の教育課程で統合され、看護の実践内容を効率的にするために生かされます。

その教育内容として基礎分野は

1. 科学的思考の基盤
2. 人間と生活・社会の理解

専門基礎分野は

1. 人間の構造と機能
2. 疾病の成り立ちと回復の促進
3. 健康支援と社会保障制度

専門分野

看護学の基盤を地域・在宅看護論と基礎看護学として、それに精神看護学が連なります。

各看護学は、講義、演習、学内実習と臨地実習で構成されそれぞれの看護の対象と生活の場によって異なる看護についての知識や技術を修得します。必要な看護技術は対象や場の違いに応じてそれぞれの看護学で繰り返し身につけることが大切になります。

技術の到達目標を目指して、学内でも臨地でも実践を試してみてください。

臨地実習はそれまでに修得した知識を臨地で「何が活かせるのか」を考えながら対象を観察することにより深く理解し、必要な看護を計画し実施していく過程を学び経験することです。

卒業後の継続

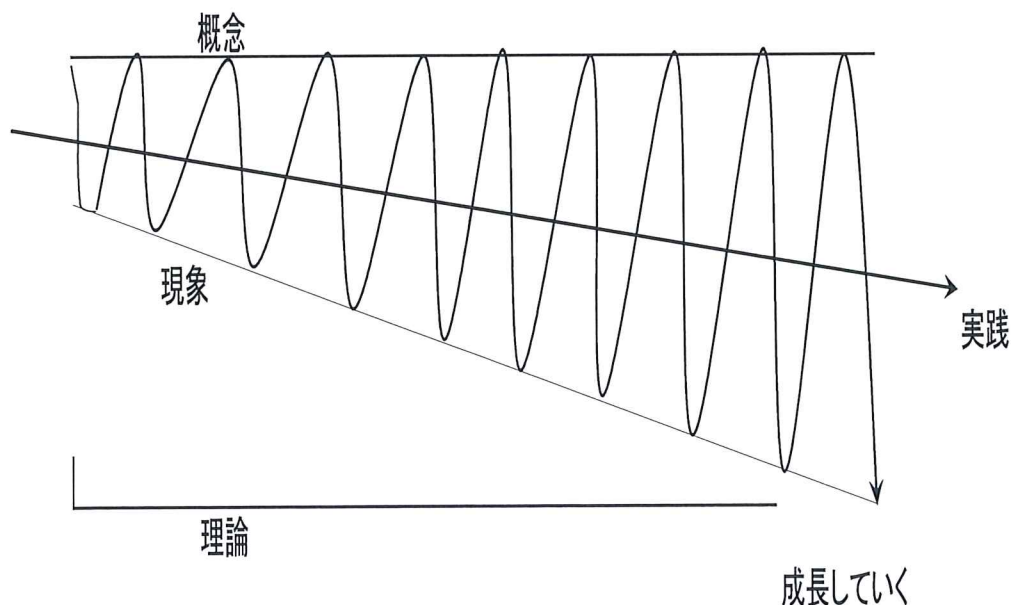
看護を学ぶことは、終わりというものはありません。卒業後は就職した病院の専門の看護に学びが生かされ更なる専門性を高めてゆきます。

学び方の基本

1. 知識は知ることだけではなく技術を通して対象に実践され又それが知識となって整理されるものです。

概念と現象の繰り返えしが学びです。

図 II



2. 理論を学び実践し、それを検証するために更に理論を学ぶ、を繰り返して実践につなげてゆきます。

以上の教育の課程には、教育目標や、各学年の到達目標、そして各科目の目標や看護技術の目標が具体的に記載されています。基本から応用へあるいは単純なものから複雑な学びへとカリキュラムは運営されています。

最後に皆様が学習する場を教育環境といますが、学び易く安全に学習が可能な様に整えています。又、教育環境は更に質的にも量的にも多くの意見を吸収しながら充実させていきたいと思ひます。

主体的に参加することによって、より多くの学びが得られると思ひます。皆様が看護職として立派に自律されることを期待しながら共に研鑽いたしましょう。

教育理念
『人間の探求・尊き愛』

教育方針

1. 人の存在の肯定のもとに、人の尊厳を尊重する看護を創造できるような教育を行う
2. 地域で生活する人と暮らしを支援することができる看護実践能力を持った人材の育成を行う
3. 看護に対して、意志（成し遂げようとする心）ある学びができるような教育を行う

教育目的

人間存在の肯定を基盤として、人間の尊厳を尊重できる看護を創造的し、生活の中で具現化できるように探求し続け、高度な知識に裏打ちされた臨床での判断によって導き出された看護の実践ができる臨床実践能力を備えた看護師の育成をする。

ディプロマポリシー

本校で教育目標を考えるに当たって、文科省で使用されている学力の3要素を用いて分類を行った。

〈知識・技能〉

1. 対象理解と看護実践

- 1) EBMに基づいた看護を選択し、対象に適した看護の提供ができる能力を身に付けています
- 2) 看護職者として自らの役割を自覚しチームで協働するための能力を身に付けています

〈思考・判断・表現〉

2. 臨床判断能力

- 1) 対象の生活に適した看護を行うために、臨床判断の基礎的能力を身に付けています

3. メタ認知

- 1) 行為の省察や自己の振り返りのためにメタ認知の基礎的能力を身に付けています

〈主体性〉

4. 目的意識

- 1) 課題を見出し、自らの意思で学ぶことができるための能力を身に付けています

5. 看護の創造性

- 1) 人間の尊厳を尊重する看護について、探求、創造し続けることができるための能力を身に付けています

1) ディプロマポリシーと下位目標のつながり

項目 (ディプロマポリシー)		下位目標①	下位目標②
知識・技能	対象理解と看護実践	1) EBM に基づいた看護を選択し、対象に適した看護の提供ができる能力を身に付けています (1) 対象を全体的 (ホリスティック) にとらえることができる (2) 対象を生活者として捉えることができる (3) 対象が望む生活について考えることができる (4) 患者理解と看護の実践のために対象とコミュニケーションをとることができる (5) 目的と根拠に基づいた看護を考える (6) 対象に合わせた看護技術を実践する	① 対象を生命、精神活動、社会活動を行う人として捉える ② 対象の生きてきた過程、生活習慣、生活信条を持ちながら暮らす人として捉える ④ 対象が生活に何を望んでいるかを引き出す ① 対象の反応を見ることができる ② 看護の意図のもと対象とコミュニケーションを行うことができる ③ 看護の専門的知識と対象の状態をつなげて考える ④ 看護技術を実践する上で根拠を明らかにする ⑤ 対象者の意向、価値観を考えた最善と考えられるエビデンスを選択し、看護を実施する ⑥ 対象の安全、安楽、自立を考えた技術を実施する
		2. 看護職者として自らの役割を自覚しチームで協働するための能力を身に付けています (1) 看護職の役割と他職種の役割を理解する (2) 連携が意味する関係の重要性がわかる (3) チームの目的を理解し、メンバーシップを発揮する	① 看護職の役割を自らの言葉で表現する ② 他職者の役割を説明する ③ 顔の見える関係と連携の関連がわかり、連携を意図的にとらえる ④ チームの目的は、対象のより良い生活の実現であることがわかる ⑤ チームの一員としての役割を果たす ⑥ マネジメントの目的と方法を説明する
	臨床判断能力	3. 対象の生活に適した看護を行うため (4) 臨床判断のプロセスを使って看護行為	① 対象の反応に気付くことができる ② 既習の知識を使って解釈すること

思考・判断・表現		に、臨床判断の基礎的能力を身に付けています	を考えることができる	ができる ③対象に適切と思われる看護実践を 実践することができる ④看護行為と行為の結果を認識し 評価することができる ⑤気づき・解釈・反応・省察のプロ セスで看護の場面を考える
	メタ認知	4. 行為の省察や自己の振り返りのためにメタ認知の基礎的能力を身に付けています	1) 看護実践における自己の思考、感情、行動をモニタリングし言語化する 2) 看護実践における自己の思考、感情、行動をコントロールする	①看護実践の気づき、行為、結果の振り返りをする ②看護を実践する過程での自己の感情を振り返り表現する ③自己が経験した出来事を既存の知識に照らし合わせ抽象化する ④問題、課題の意味することを考える
主体的学習	目的意識	5. 課題を見出し、自らの意思で学ぶことができるための能力を身に付けています	1) ありたい未来を描きその実現のために思考、行動できる 2) 自ら知識やスキルを習得する目的を明確にして、行動できる	①課題（学習課題・自分の課題・社会的課題・看護の対象の課題）を発見することができる ②課題解決のためのプロセスを経て、課題解決のために取り組むことができる ③課題解決に向けて、新しい知識を獲得することができる
	看護の創造性	6. 人間の尊厳を尊重する看護について、探求、創造し続けることができるための能力を身に付けています	1) 人間存在の意味について思索する 2) 自己肯定の意識に基づく他者肯定の考え方を学ぶ 3) 人間の存在肯定の上に立つ看護の具現化を探求し学び続ける	①看護にとっての人間の意味を考える ②自分も対象もそれぞれ価値感、信条、考え方は異なるが人権を持った個人であることがわかる ③個人情報保護、プライバシーの保護、権利の尊重を踏まえた看護を考えることができる ④対象にとっての最善の看護を考え続けることができる

2.授業科目				別表							
授業科目			単位	時間	1年次		2年次		3年次		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎分野	科学的思考の基盤	論理的思考	1	30	1						
		物理学	1	30	1						
		情報科学	1	30			1				
	人間と生活・社会の理解	哲学	1	30		1					
		心理学	1	30	1						
		人間関係論	1	30			1				
		発達心理学	1	30		1					
		人権論	1	30			1				
		生命倫理	1	30				1			
		文化人類学	1	30						1	
		看護と音楽	1	15						1	
		看護と英語	1	30			1				
		中国語	1	15					1		
組織論	1	30	1								
法学	1	15			1						
①小計			15	405	4	2	5	1	1	2	
授業科目			単位	時間	1年次		2年次		3年次		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	2	60	2						
		解剖生理学Ⅱ	1	30		1					
		解剖生理学Ⅲ	1	30		1					
		生化学	1	30	1						
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1	30	1						
		微生物学	1	30	1						
		疾病と治療Ⅰ	1	30		1					
		疾病と治療Ⅱ	1	30		1					
		疾病と治療Ⅲ	1	30		1					
		疾病と治療Ⅳ	1	30		1					
		疾病と治療Ⅴ	1	30			1				
		疾病と治療Ⅵ	1	15				1			
		薬理学	1	30	1						
		栄養学	1	30	1						
		看護臨床判断の基礎	1	30		1					
	健康支援と社会保障制度	医療と社会	1	20	1						
		社会福祉学概論	1	15			1				
		社会福祉学方法論	1	15				1			
		看護関係法規	1	15					1		
		公衆衛生学	1	15						1	
		健康運動論	1	30						1	
②小計			22	575	8	7	2	2	1	2	
授業科目			単位	時間	1年次		2年次		3年次		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門分野	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	1	30	1						
		看護学概論Ⅱ	1	30						1	
		看護基礎技術Ⅰ	1	30	1						
		基礎看護技術Ⅱ	1	30	1						
		日常生活援助技術Ⅰ	1	30	1						
		日常生活援助技術Ⅱ	1	30		1					
		診療に伴う技術Ⅰ	1	30		1					
		診療に伴う技術Ⅱ	1	30		1					
		臨床につなげる看護技術Ⅰ	1	30			1				
		臨床につなげる看護技術Ⅱ	1	30				1			
		看護研究の基礎	1	15	1						
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論Ⅰ	1	30	1						
		地域・在宅看護概論Ⅱ	1	30			1				
		地域・在宅看護方法論Ⅰ	1	15				1			
		地域・在宅看護方法論Ⅱ	1	15						1	
		地域・在宅看護技術	1	30				1			
	成人看護学	成人看護学概論	1	30		1					
		成人看護学方法論Ⅰ	1	30			1				
		成人看護学方法論Ⅱ	1	30			1				
		成人看護学方法論Ⅲ	1	30				1			
	老年看護学	成人看護学技術	1	30			1				
		老年看護学概論	1	30			1				
		老年看護学方法論	1	30			1				
	母性看護学	老年看護学技術	1	30				1			
		母性看護学概論	1	30		1					
		母性看護学方法論	1	30			1				
	小児看護学	母性看護学技術	1	30				1			
		小児看護学概論	1	30		1			1		
		小児看護学方法論	1	30			1				
	精神看護学	小児看護学技術	1	30				1			
		精神看護学概論	1	30		1					
		精神看護学方法論	1	30			1				
	領域横断	精神看護学技術	1	30					1		
		看護的思考の基礎	1	30	1						
		看護と療法	1	30				1			
		家族看護学	1	30			1				
		医療安全	1	15		1					
		看護倫理	1	30		1					
	看護の統合と実践	専門職連携とチーム医療	1	15						1	
		看護管理	1	30					1		
		災害看護	1	15						1	
		看護技術統合	2	60					2		
③小計			43	1200	7	9	11	9	3	4	
①②③計			80	2180	19	18	18	12	5	8	
授業科目			単位	時間	1年次		2年次		3年次		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	
実習	基礎看護学	基礎看護学実習Ⅰ	1	30	1						
		基礎看護学実習Ⅱ	1	45		1					
		基礎看護学実習Ⅲ	2	90		2					
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護論実習Ⅰ	1	45	1						
		地域・在宅看護論実習Ⅱ	2	90					2		
	成人看護学	成人看護学実習Ⅰ	2	90					2		
		成人看護学実習Ⅱ	2	90					2		
	老年看護学	老年看護学実習Ⅰ	2	90					2		
		老年看護学実習Ⅱ	2	90					2		
	母性看護学	母性看護学実習	2	60				2			
	小児看護学	小児看護学実習	2	90				2			
精神看護学	精神看護学実習	2	90					2			
看護の統合と実践実習	看護の統合と実践実習	2	90						2		
④小計			23	990	2	3	0	4	12	2	
総合計			103	3170	21	21	18	16	17	10	

3) 学年目標

ディプロマポリシー	学年目標		
	1 年次	2 年次	3 年次
一. EBM に基づいた看護を選択し、対象に適した看護の提供ができる能力を身に付けています	1, 対象をホリスティックな存在であり、生活する者として捉え、対象の生活に対する思いに気付く	1. 各発達段階にいる対象がどのような生活を送りたいか考える	1. 対象をホリスティックにとらえ、多様な価値観を持つ対象が望む生活に対して関心をもってかかわることができる
	2. 知識をつなげ、看護技術の根拠を明らかにしたうえで、正確な技術を身に付ける 3. 対象のニーズを満たすために看護技術提供の考え方をを使って看護技術を提供する	2. 各発達段階、各病期、症状、各療法を行っている対象に必要な看護を考え、安全・安楽に提供する	2. 対象に適した看護の実践のために、安全・安楽・自立を考えた技術の提供ができる
二. 看護職者として自らの役割を自覚しチームで協働するための能力を身に付けています	4. チーム医療の必要性和チームの一員としてのあり方を理解する 5. 看護としての考え方を学び、看護師の役割を考える	3. チーム医療における協働・連携を理解し、協働を経験する 4. チーム内で看護師として考え、看護師としての意見を発信できる	3. 対象のより良い生活のためにチームとして連携し、看護専門職としての役割を理解して協働できる
	6. 技術を提供するための技術の考え方と看護過程を理解し、対象にその思考を使って看護を提供する 7. 患者の変化に気づくことができる	5. 看護行為に至る思考過程と臨床判断モデルにおける臨床判断の思考を使って看護を考え提供する	4. 対象に適した看護の実践を考えるため看護における臨床判断の思考過程を使って看護を考え提供することができる
四. 行為の省察や自己の振り返りのためにメタ認知の基礎的能力を身に付けています	8. 自分が行っていることを全体的にとらえその中での位置づけを理解する。 9. 物事を私ではない主語で考える	6. 他者のアドバイスを受け入れ、自分の行動を振り返る 7. 自分が感じている感情に自分自身が気づく	5. 自己の体験を振り返り、その体験の意味とその体験からの学びを明らかにすることで、経験として客観視できる
	10. 自らの看護職者としてのゴールを明らかにし、ゴール	8. 学習課題、自己の課題を発見できる	6. 課題を見出し、主体的に学ぶことができる

意思で学ぶことができるための能力を身に付けています	に向けての道筋を描く	9、学びを深めるための道筋がわかる	7. 看護専門職としての自覚を持ち規範を守ることができる
六. 人間の尊厳を尊重する看護について、探求、創造し続けることができるための能力を身に付けています	11、人間の存在を肯定することの重要性と自ら成功体験を積み重ねることでの自己効力感を感じることができる 12、看護師として倫理的であることの必要性がわかる	10、人間存在の肯定を基盤に自己と他者の関係を構築する 11、看護として尊厳を尊重する行動を考える	8. 人として存在することの重要性を理解し、自己の肯定を意識化することで、他者を尊重した行動をとることができる
	13、最善の看護とは常に対象に応じて変化するものであり、その変化のなかで進化させていくものであると理解する	12、対象が望む生活の実現のためにさまざまな資源を知り、必要な看護を考える 13、対象に行った看護を振り返り、次に生かす	9. 習慣や慣習に縛られず、その人の望む生活に合った看護を創造することをやめない

授業科目のねらい

基礎分野 ; 人間と生活、社会を幅広く理解し人間の多様性を受け入れることができる人間性と、職業としてのものの考え方を学び、チームで協調できるための意識とコミュニケーション能力を高める基盤を身につけます。また、人々の健康上の課題に適切に対応するための科学的思考の基盤を身につけます。

専門基礎分野 ; 人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進、健康障害をきたした人々の病態、症状と治療の理解をします。また、単独の知識としてではなく、知識のつながりの中でその人に起きている病態をとらえ看護として使えるように各教科を関連して学んでいきます。人々が生涯を通して、健康や障害の状態に応じた社会資源や運動の基本知識の理解と生活をしている対象への看護の実践ができるように活用方法を学びます。

専門分野 :

- ・看護の概念や役割を学ぶ中で看護についての理解を深め、看護としてのものの捉え方や考え方の基本を理解します。対象を生活をしている人として捉え、生活の中での看護を展開できるための基礎となる看護技術を身につけます。

看護実践を行う上で重要となる、看護臨床判断の基礎的能力として、基礎分野や専門基礎分野での学びを実際に看護として活用できるように知識をつなげ組み立てながら学んでいきます。

- ・各領域の対象と一般化された看護を理解し、対象に適した看護を実践するため看護臨床判断の過程を使って思考過程を身に着けます。

- ・既習の知識を統合し、人々の健康と生活、社会との関連を理解する中で、チーム医療及び他職種との協働の中での看護師としての役割を理解します。また、臨床に即した、複数患者を対象とした看護技術や医療機器を装着した患者への看護技術の提供方法を身につけます。

看護技術の学び方

看護技術とは（本校の定義）

看護技術とは、対象によってより良い看護ケアを適用するために習得する「技」の1つであり、またその技の体系のことである。つまり、ひとつの技のことも看護技術というし、その全体のことや全体を構成する仕組みも同じ看護技術という言葉で表現されている。そして、『豊かな意味合いをもつ看護技術の一つひとつについて、個人が援助者として対象にその技を十分に表現でき、説明できること』『看護学全体としては、了解可能な言葉で技の技たるゆえんや、それを理論的に説明できること』の2つの側面を持ち、かつ、両方の立場を融合させた試みを持つ技術をいう。

基礎看護技術：基礎看護技術とは、看護師として臨床にたつ前に学生が学習しておくべき範囲の技術をいう。

診療技術：診療の技術とは、保健師助産師看護師法に基づく診療の補助業務についての技術をいう。

1 年生	科目名	基礎看護技術Ⅰ・基礎看護技術Ⅱ・日常生活援助技術Ⅰ・日常生活援助技術Ⅱ 診療に伴う技術Ⅰ・診療に伴う技術Ⅱ 臨地実習（地域・在宅看護論実習Ⅰ・基礎看護学実習Ⅰ・基礎看護学実習Ⅱ・基礎看護学実習Ⅲ）
	学び方	初めに、臨床の看護師が行う看護技術を見て、患者に行われている看護技術と技術の考え方を学ぶ。看護技術は、生活をしている対象の健康上の問題を解決するための手段として複合的に組み合わせて実施していかなければならないということを学ぶ。一つ一つの看護技術を科学的根拠のもとで理解して正確な技術を身に付けていく。学生同士又は、モデルを使って具体的な基礎看護技術を身につける。「理にかなった方法」で正しく実施できるように何度も反復練習し、自信が持てるようにしていく。
2 年生	科目名	臨床につなげる看護技術Ⅰ・臨床につなげる看護技術Ⅱ・成人看護学技術・老年看護学技術・母性看護学技術・小児看護学技術・精神看護学技術・地域・在宅看護技術 臨地実習（母性看護実習、小児看護実習）
	学び方	看護技術は、基礎看護学での既習の個々の看護技術を統合し、疾病・障害を持った患者に対し応用する事を学びます。1 年生時に学んだ基礎看護技術を統合し、各専門領域における患者の特性を学び、看護における臨床判断の思考過程を使って、患者の状態をシミュレーションし看護技術を身につける。看護技術を患者に適した選択方法を学び、実践するという事である。技術に対し、反省を加え、批判を受け止め建設的に組み合わせる科学性を学ぶ。
3 年生	科目名	看護技術統合 臨地実習 （成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ、老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ、精神看護学実習、地域・在宅看護論実習Ⅱ、看護の統合と実践実習）
	学び方	臨床実習では、患者と医療の目的、状況に応じて必要な知識を事前学習して、患者個人の看護技術に反映させます。その場その場の具体的な状況を看護における臨床判断の思考過程を使って、技術を行う事ができるように学習する。 統合実習では、看護実践の場で患者と医療の状況に応じて必要な専門的知識を取り出して看護技術に反映させます。個々では、看護における臨床判断を様々な場面で使い判断し、その振り返りを行うことでより良い看護判断ができるようになることが必要である。また、自己決定する力、自分で学習を進める力、判断する力、特に自己の限界を知り他者に援助を求める力が必要になる。卒業前の臨床実践能力を判定する場にもなる。

基礎分野

ねらい：人間と生活、社会を幅広く理解し人間の多様性を受け入れることができる人間性と、職業としてのものの考え方を学び、チームで協調できるための意識とコミュニケーション能力を高める基盤を身につけます。また、人々の健康上の課題に適切に対応するための科学的思考の基盤を身につけます。

教育内容		科目	単位	時間	講義形態	科目目標
基礎分野	科学的思考の基盤	論理的思考	1	30	講義 演習	1、看護における科学的なものの捉え方、考え方の基盤となる論理的な考え方を学ぶ。 2、論理的な考え方を日常生活で活用し、他者に伝えることができよう言語化や表現を行う。また、討論法を経験し学ぶ。
		物理学	1	30	講義 演習 実験	1、看護技術で用いる「力」「圧力」「熱」など看護を行う上で必要な物理学を学ぶ。 2、看護を实践するうえで、物理学的視点を実践の根拠として活用できる。 3、人体の運動力学や、医療機器の作動原理に関する基礎知識を理解する。
		情報科学	1	30	講義 演習	情報通信技術（ICT）の活用のための基礎的能力を理解し、情報リテラシーを身につけることをねらいとする 1. 情報と情報化社会についての基礎知識を理解する 2. 情報を臨床の現場で活用するための方法を理解し、実践する 3. 情報の取り扱いについて、対象及び自己を守ることの必要性和手段を理解する 4. 情報を活用するための統計的手法の基礎を学ぶ
	人間と生活・社会の理	哲学	1	30	講義 演習	1、看護の対象としての人・人間をどうとらえるか、先人の哲学者の考えを学ぶ。 2、先人の知見をもとに、自らの人・人間の捉え方を討議を通して深める。
		心理学	1	30	講義 演習	1、学生が自己と自己の反応を心理学的視点で理解することで自己の状況を客観的に判断することができる。 2、対象の心理を反応や言動から心理学的視点で考え、対象理解をするために人間の心理や行動の基礎にある原理を学ぶ。
		人間関係論	1	30	講義 演習	1、人と人が関わる中での人間関係における基本的な理論や人間関係構築の考え方を学ぶ。 2、言語的・非言語的コミュニケーションを通して相手の行動の

教育内容		科目	単位	時間	講義 形態	科目目標
	解					変容を試みる人間関係の方法を知ること、受容と共感について学ぶ。 3、社会生活をしていく中で経験する、自分では処理しきれない困難や悩みに対して、人間関係をもとに問題解決のためのカウンセリングの理論と技法を学ぶ。
		発達心理学	1	30	講義 演習	1、心理的発達が、乳幼児期から老年期までのライフサイクルの中で密接に関連していることを理解する。 2、看護の対象を「一生発達し続ける存在」として捉え、その存在を系統的に理解し、発達のための支援を学ぶ。
		人権論	1	30	講義 演習	1、社会や医療現場における人間尊重や権利擁護に対する矛盾、不条理に気づくことができる。 2、偏見、差別や自分の感情・立場により、人間の権利は容易に侵されやすいことを知り、人間の尊厳の尊重について考えることができる。
		生命倫理	1	30	講義 演習	1、生命に関する倫理的問題（生命科学と保健医療の道徳的諸次元—道徳的展望、意思決定、行為、政策を含む）の実際を知る。 2、生命に関する倫理問題を討議し、自分たちの問題として捉える。
		文化人類学	1	30	講義 演習	国際化へ対応する能力として、異文化の多様な価値観を知ることがをねらいとする。 1、文化によって異なる家族や宗教などのさまざまなあり方を学習し、異文化の存在とその根底にある多様な価値観を理解する。 2、さまざまな価値観に触れ、自己の価値観を改めて考えるとともに、多様な価値観を受け入れる必要性について理解する。
		看護と音楽	1	15	講義 演習	1、癒しとしての音楽の意義を理解する。 2、対象の癒しとして、具体的な音楽の活用方法を知る。 3、自らも音楽を聴く、歌うことにより癒しを体験する。
		看護と英語	1	30	講義 演習	1、ナイチンゲールの著書である「看護覚え書」を原著で講読することで看護の本質に触れ、看護を考える基盤する。 2、基本的な医療英会話を学び、楽しみながら異文化を理解する。
		中国語	1	15	講義 演習	国際化へ対応する基礎的能力として、日本の近国であり今後ますます関わる人が増えてくるであろう中国語を学び、異なる国の人の価値観を知ることがをねらいとする。 1、中国の日常会話を学ぶ中で、中国の人のものの考え方や文化を知り、異文化理解を深める。

教育内容		科目	単位	時間	講義 形態	科目目標
		組織論	1	30	講義 演習	1、看護師として働くうえで必要な組織の成り立ち、組織と人の関係を理解する。 2、組織の中で働くことの意味を理解し、組織の中での自らの働き方について考える。
		法学	1	15	講義	1、法律の基礎を学び、人間の生活、健康、医療と法律の関係について理解する。

専門基礎分野

ねらい：人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進、健康障害をきたした人々の病態、症状と治療の理解をします。また、単独の知識としてではなく、知識のつながりの中でその人に起きている病態をとらえ看護として使えるように各教科を関連して学んでいきます。人々が生涯を通して、健康や障害の状態に応じた社会資源や運動の基本知識の理解と生活をしている対象への看護の実践ができるように活用方法を学びます。

教育内容		科目	単位	時間	講義 形態	科目目標
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	2	60	講義 演習	1、看護に必要な人体の構造（解剖）と機能（生理）について健康、疾病を理解する上での基盤として系統立てて理解し、人間を対象とした看護に応用できる基礎的能力を身につける。
		解剖生理学Ⅱ	1	30		
		解剖生理学Ⅲ	1	30	講義 演習	1、看護に必要な人体の構造と機能について理解する。 2、それぞれの章で学んだ臓器と臓器の関連性や生体を調整する神経等の関わりを、グループワークを通して学ぶ。 ・看護に使える解剖生理の前段階として、各臓器がつながっていることを理解する。 ・解剖生理学に対し興味関心を持つことができるように、自らの身体を使って学ぶ。
		生化学	1	30	講義	1、人体の構成成分である物質の性状及科学反応について学ぶ。 2、生体機能の中で正常を維持する役割の物質、正常から異常へ変化する際に関連する経路について学ぶ。 3、疾患に罹患することによっておこる身体の変化のメカニズムを理解し臨床での看護の判断力の基礎を養う。
		病理学	1	30	講義	1、疾病になる原因と、疾病によって患者の身体に生じている変化を理解し、臨床での看護の判断力を養う。

教育内容		科目	単位	時間	講義 形態	科目目標
疾病 の 成 り 立 ち と 回 復 の 促 進	微生物学	1	30	講義	1、それぞれの微生物の特徴と生体に及ぼす影響、メカニズムを理解し、その対応について学ぶ。 2、感染症に罹患した患者の身体で起きていることを理解し臨床での看護の判断力の基礎を養う。 3、近年の感染症の特徴（新興・再興感染症、国境なき感染症、動物由来感染症）について学習し、感染予防の具体的な法律や方法を学ぶ。	
	疾病と治療Ⅰ （呼吸器・アレルギー/循環器）	1	30	講義	1、呼吸器疾患・アレルギー疾患と循環器の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と看護における臨床での判断力の基礎を養う。	
	疾病と治療Ⅱ （消化器/内分泌・代謝）	1	30	講義	1、消化器疾患と内分泌疾患・代謝疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と看護における臨床での判断力の基礎を養う。	
	疾病と治療Ⅲ （血液・膠原病/皮膚/腎・泌尿器）	1	30	講義	1、血液疾患、膠原病、皮膚疾患と腎・泌尿器疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と看護における臨床での判断力の基礎を養う。	
	疾病と治療Ⅳ （脳/運動器）	1	30	講義	1、脳疾患と運動器疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と看護における臨床での判断力の基礎を養う。	
	疾病と治療Ⅴ （精神/小児）	1	30	講義	1、精神疾患と小児疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と看護における臨床での判断力の基礎を養う。	
	疾病と治療Ⅵ （眼科/耳鼻科/歯科口腔科）	1	15	講義	1、眼科疾患、耳鼻咽喉疾患、歯科口腔疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と看護における臨床での判断力の基礎を養う。	
	薬理学	1	30	講義	1、薬物の特徴、作用機序、人体への影響を理解する 2、薬物の管理について理解し臨床で活用できる。 3、薬物投与における身体の変化及び生活への影響を理解し、看護の判断につなげる力を養う。	
	栄養学	1	30	講義 演習	1、生体に必要な栄養素のはたらきを理解する。 2、栄養と疾病の関係と人の身体で起きている変化を理解し、看護における臨床での判断力の基礎を養う。 3、食事の重要性や食生活に伴う健康問題について学び臨床で活用できる知識を養う。	
	看護臨床判断の基礎	1	30	講義 演習	1、解剖生理学・生化学と疾病と治療Ⅰ～Ⅳ、病理学、微生物学の知識のつながり、および薬理学、栄養学の知識の	

教育内容		科目	単位	時間	講義 形態	科目目標
						つながりを事例を通して一連の流れとして理解する。 2、病気や検査治療によって引き起こされる身体の変化を身体機能と働きからつなげて考えることで対象の心身で起きていることを理解し、看護における判断の基礎的能力を養う。
	健康支援と社会保障制度	医療と社会	1	20	講義	1、現代の医療を取り巻く状況の変化の中で、医療がおかれている状況や医療における諸問題を学ぶ。 2、現代の医療を理解するうえで必要な概念を理解する（ノーマライゼーション・インフォームドコンセント・プライマリケア・保健医療福祉システムと地域住民の役割） 3、医療従事者としてどのような姿勢で学んでいくか考えるきっかけとする。
		社会福祉学概論	1	15	講義	1、社会福祉の変遷や基本理念・概念を理解し、社会保障制度の内容とその背景を理解する。 2、人々が生涯を通じて健康や障害の状況に応じて社会資源を活用できるように必要な知識と基本的能力を養う
		社会福祉学方法論	1	15	講義 演習	1、社会福祉の法制度を理解し、対象の望む生活の実現に向けて活用方法を学ぶ。
		看護関係法規	1	15	講義 演習	1、看護職に必要な法令を学び、看護業務及びその法的責任について理解する。 2、看護実践を、法律を使って考えることができる。
		公衆衛生学	1	15	講義	1、健康の保持増進や疾病予防のための基礎として公衆衛生を学び、疾病の予防について理解し、看護における判断力を養う。
		健康運動論	1	30	講義 演習	1、人々の健康増進、疾病の予防に必要不可欠な運動と運動がもたらす身体の変化について理解する。 2、人々が生涯を通じて運動と関わっていけるように看護実践で活用できる。

専門分野

看護の概念や役割を学ぶ中で看護についての理解を深め、看護としてのものの捉え方や考え方の基本を理解します。対象を生活をしている人として捉え、生活の中での看護を展開できるための基礎となる看

護技術を身につけます。

看護実践を行う上で重要となる、看護臨床判断の基礎的能力として、基礎分野や専門基礎分野での学びを実際に看護として活用できるように知識をつなげ組み立てながら学んでいきます。

・各領域の対象と一般化された看護を理解し、対象に適した看護を実践するため看護臨床判断の過程を使って思考過程を身に着けます。

・既習の知識を統合し、人々の健康と生活、社会との関連を理解する中で、チーム医療及び他職種との協働の中での看護師としての役割を理解します。また、臨床に即した、複数患者を対象とした看護技術や医療機器を装着した患者への看護技術の提供方法を身につけます。

教育内容		科目	単位	時間	講義 形態	科目目標
専門 分野	基礎 看護 学	看護学概論Ⅰ	1	30	講義	看護学を履修するときの最初に学習する専門科目である。看護を学ぶにあたって看護の導入として捉えると共に看護の持つ豊かさや奥深さに触れる機会としたい。 1、看護、看護学、看護師とは何か、どのような職業なのか体験をもとに学び、興味・関心をもつ。 2、看護における重要な要素である看護倫理の基礎を学ぶ。 3、看護を考えるうえで重要な「健康」「人間」「環境」「生活」を基礎要素として学ぶと共にそれらとの関係性の中で「看護」を考え看護の意義について理解する。 4、看護理論を使って対象理解や現象の理解の方法を学ぶ。
		看護学概論Ⅱ	1	30	講義 演習	看護を学んできた成果のまとめと、今後の看護の広がり学ぶことで自らの看護観を考えるきっかけとしてほしい。 1、看護学実習で受け持った対象を1例選定し、ケーススタディを行う。 2、臨地実習で感じた倫理的課題を見出し、倫理的課題の対応方法を学ぶ。 3、求められる看護の姿とこれからの看護の展望とを考え、自らの看護の方向性を考えるきっかけとする。
		看護基礎技術Ⅰ	1	30	講義 演習	看護を行う上で基礎となる看護技術である。看護の判断力を使って、看護の実践を行うために必要な技術を学ぶ。 1、看護技術を行うために必要な技術の考え方を学ぶ 2、人間関係を成立させるための技術としてのコミュニケーションの基礎的知識を学び、ロールプレイングを行いながら看護の場面で活用できるための能力を身につける 3、看護実践のベースとしての感染予防を学ぶ。 4、活動や休息を支援する技術を学び、実践できる 5、看護を実践するために必要な看護の思考過程を学ぶ。

教育内容		科目	単位	時間	講義 形態	科目目標
		看護基礎技術 II	1	30	講義 演習	看護の判断力を使うために最も重要なフィジカルアセスメント・ヘルスアセスメントを学ぶ。視診・聴診・打診・触診・問診等を使って、対象の心身の状態を判断するための技術を学ぶ。 1、ケアをするための前提として必要となるフィジカルイグザミネーション・フィジカルアセスメントを学ぶ。 2、生活者として捉えてアセスメントするためのヘルスアセスメントを学ぶ。
		日常生活援助 技術 I	1	30	講義 演習	1、健康生活の維持や疾病回復の過程を「生活する視点」から諸科学をつなげて援助を捉えることができる。 2、看護の対象の生活過程を整えるため、その援助方法を習得する。 ①環境が人に与える影響を理解し快適な環境を作るための技術を学び実践できる ②身体の清潔を援助する技術を学び、実践できる
		日常生活援助 技術 II	1	30	講義 演習	1、健康生活の維持や疾病回復の過程を「生活する視点」から諸科学をつなげて援助を捉えることができる。 2、看護の対象の生活過程を整えるため、その援助方法を習得する。 ①食事、栄養摂取を安全に行うための技術を学び実践できる ②排泄援助を受ける対象の心情を理解し、安全安楽な排泄援助技術を学び実践できる
		診療に伴う技 術 I	1	30	講義 演習	1、診療、検査・治療処置をうける対象への援助及び診療補助技術が身体に及ぼす影響を理解する。 2、対象への安全で安楽な看護技術の援助方法を身につける。 ①検査、治療を正確、安全に行うための技術を学び実践できる ②呼吸を楽にする技術を人間の解剖学的視点から理解し実施できる ③体温を調整する技術を人間の解剖学的視点及び症状発生のメカニズムを理解し実施できる ④褥瘡の発生メカニズムを理解し、対象に適した看護を実施できる
		診療に伴う技 術 II	1	30	講義 演習	1、診療、検査・治療処置をうける対象への援助及び診療補助技術が身体に及ぼす影響を理解する。

教育内容		科目	単位	時間	講義形態	科目目標
						2、対象への安全で安楽な看護技術の援助方法を身につける。 ①与薬を正しく行うために必要な知識を理解し、正確な手技で実施できる ②輸血の種類、保管、取り扱い、副作用等理解し、正しい手技で実施できる ③死者の尊厳を保つことができるようなエンゼルケアを実施できる
		臨床につながる看護技術Ⅰ	1	30	講義 演習	1、看護判断を行うための思考過程を学び、シミュレーションを通して活用する。 2、さまざまな健康上のニーズをもつ人々に、既習の個々の知識を統合し、対象の状態と対象に適した看護の実践を判断した上でシミュレーションをしながら学ぶ。
		臨床につながる看護技術Ⅱ	1	30	講義 演習	1、看護判断を行うための思考過程を学び、シミュレーションを通して活用する。 2、医療機器を装着している患者の観察と看護を実践できる。 3、医療機器を装着している患者に対し、既習の個々の知識を統合し、対象の状態と対象に適した看護の実践を判断した上でシミュレーションをしながら学ぶ。
		看護研究の基礎	1	15	講義 演習	1、看護における研究の意義・役割を理解し、文献検索の重要性と積極的活用の基礎を学ぶ。 2、看護実践を振り返る際、活用できるための研究の方法についての基本的知識を習得する。
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論Ⅰ	1	30	講義 演習 観察	1、へき地医療同行経験を通して、地域で生活する人々の暮らしを経験的に知る。 2、人が生活する、暮らすということについて理解する 3、地域・在宅看護を取り巻く社会の現状や時代背景及び歴史の変遷を学び、在宅看護の意義や目的を理解する。 4、在宅看護における倫理について理解する
		地域・在宅看護概論Ⅱ	1	30	講義 演習	1、在宅看護の対象となる人とその家族を理解する。 2、療養者が生活する地域の特徴と地域が療養者、家族に及ぼす影響を理解する 3、在宅看護に必要な理論を理解し、在宅における看護過程を学ぶ 4、在宅療養者の権利擁護として自己決定の必要性を学ぶ

教育内容		科目	単位	時間	講義 形態	科目目標
		地域・在宅看護方法論Ⅰ	1	15	講義 演習	1、在宅で療養するためのシステムと制度を理解する ①地域包括ケアシステムにおける在宅看護の位置付けと役割を学ぶ。 ②ケアマネジメントの基礎と在宅で行われている実際を学ぶ ③地域連携クリティカルパスについて理解する。 ④退院支援・退院調整の必要性和、入院から退院後の生活を支援するための考え方を学ぶ。 2、在宅療養者をチームで支えることの意味と連携協働を学ぶ 3、事例を使い、在宅療養を支えるために訪問看護が行うアセスメント、直接的な看護技術の提供、家族支援等総合的に行うことができる。
		地域・在宅看護方法論Ⅱ	1	15	講義 演習	1、事例をもとに、地域で生活しながら療養を行うことを支えるための制度や社会資源、福祉サービスの活用と看護師としての支援の方法を考える。 2、在宅における倫理的課題を明らかにし、倫理的課題の対応方法を学ぶ。
		地域・在宅看護技術	1	30	講義 演習	在宅で看護実践を行う際の技術提供の基本となる技術、日常生活援助技術、診療の補助技術を具体的な事例を使いながら実践的に学ぶ。 1、在宅療養を支えるための基盤となる訪問技術や在宅看護過程、コミュニケーション技術を学ぶ。 2、日常を支える生活の中で行う看護技術を学ぶ。 3、療養を支える医療ケアの技術を学ぶ。 4、療養者、家族の自立を促すための学習支援の技術を学ぶ。
	成人看護学	成人看護学概論	1	30	講義	生活をしている成人としての成長発達の特徴や役割、それに伴う特有の反応や健康問題について理論を用いて説明できる。 1、成人としての身体的、精神的、社会的、また、学習上の特徴を理解し、生活や健康に及ぼす影響を理解する 2、成人期の健康障害について理解する。 3、成人期の対象への看護で必要な理論を理解し、対象に活用できる。

教育内容		科目	単位	時間	講義形態	科目目標
						4、成人期における対象を看護するための看護における臨床判断力を養う。 5、成人期の対象を看護する際の倫理的課題を明らかにする。
		成人看護学 方法論Ⅰ（急性期・回復期）	1	30	講義	急性期や回復期にある成人の患者と家族に対して、生命の危機を乗り越え、回復に向かうために必要な看護を学ぶ。 1、急性期にある成人の患者の特徴を理解し、手術療法をうける患者への看護援助や生命の危機的状況にある患者への看護援助を学ぶ。 2、回復期の成人の患者のセルフケア再獲得の看護介入について学ぶ。 3、事例をもとに急性期・回復期の患者を看護するための看護における臨床判断を学ぶ。 4、事例をもとに急性期・回復期の看護を行う上での倫理的課題を明らかにし対処方法を学ぶ。
		成人看護学 方法論Ⅱ（慢性期）	1	30	講義 実験 実習	慢性期の病を持った成人の患者と家族が、生活者として病気や家庭、社会生活と折り合いをつけて生きていくことを看護としてどのように支援していくかを学ぶ。 1、慢性疾患を持つ患者と家族の特徴と看護として必要なセルフマネジメント支援を学ぶ。 2、セルフマネジメント支援に必要な理論を学び、事例を通して慢性期の患者を看護するための看護における臨床判断を学ぶ。 3、事例をもとに慢性期の看護を行う上での倫理的課題を明らかにし対処方法を学ぶ。
		成人看護学 方法論Ⅲ（緩和ケア・救急救命）	1	30	講義 演習	1、緩和ケアの概念を学び、がん患者及び非がん患者への緩和ケアについて学ぶ。 2、事例をもとに緩和ケアを行う患者、家族を看護するための看護における臨床判断を学ぶ。 3、生命の尊厳やQOL等、倫理的配慮を含め事例を通して学ぶ。 4、救急看護における知識・技術・態度を学び、臨床実践能力の向上を図る。 5、救急看護における倫理的課題を明らかにし対処方法を学ぶ。

教育内容		科目	単位	時間	講義 形態	科目目標
		成人看護学 技術	1	30	講義 演習	成人期の看護実践を行う上で、治療、検査に対する看護は重要である。疾患の検査、治療に対して、安全、安楽に実施できるための看護技術を学ぶ。 1、障害を受けた人が、直接的環境及び社会で生活できるように行うリハビリテーションの実際を学び、看護としての看護介入を学ぶ。 2、疾患の検査や治療で行われる身体侵襲を伴う医療技術を医学的根拠をもって理解し、患者が合併症や二次的障害を起さないよう安全安楽な看護介入を学ぶ。 3、事例を通して医療処置を受ける患者を看護するための看護における臨床判断を学ぶ。
	老年看護学	老年看護学概論	1	30	講義 演習	1、老年看護の特徴、健康な高齢者の日常生活の保持・増進、老年看護の目的、役割、機能について学ぶ。 2、高齢者を取り巻く社会情勢を理解し、法制度、施策及び高齢者の権利について学ぶ。 3、高齢者と家族を看護する際の倫理的課題を明らかにする。 4、老化による身体的、精神的、社会的変化を体験的に知る。
		老年看護学 方法論	1	30	講義 演習	1、高齢者の疾病・障害の病態を老化と関連して理解し、健康障害に応じた看護を理解する。 2、健康障害が高齢者と家族に与える影響を理解し予防、健康の回復及び対象が望む生活への看護支援を学ぶ。 3、高齢者の強みをふまえたアセスメントができ、個々の高齢者に応じた看護が展開できるための看護を学ぶ。 4、事例をもとに高齢者と家族の看護を行う上での倫理的課題を明らかにし対処方法を学ぶ。
		老年看護学 技術	1	30	講義 演習	1、高齢者と家族のおかれた環境、生活に適応するための援助技術を学ぶ。 2、事例を通して高齢者と家族が地域で生活するために必要な看護するための看護における臨床判断を学ぶ。
	母性看護学	母性看護学概論	1	30	講義	1、母性看護の対象を理解し、母性看護の意義を学ぶ。 2、母性を取り巻く社会情勢と法制度、施策、母子保健の動向を理解し母性看護の役割を学ぶ。 3、各年齢層における身体的、精神的、社会的変化を理解する。

教育内容		科目	単位	時間	講義 形態	科目目標
						4、母性における倫理的課題を明らかにする。
		母性看護学 方法論	1	30	講義 演習	1、妊娠・分娩・産褥期における対象理解、正常分娩の経過と健康の保持増進の看護を学ぶ。 2、新生児の生理的特徴及びアセスメントと看護を学ぶ。 3、事例をもとに新生児と母親の看護を行う上での倫理的課題を明らかにし対処方法を学ぶ。
		母性看護学 技術	1	30	講義 演習	1、妊娠期・分娩期・産褥期の異常及びハイリスクな状況の人々の分娩経過とその看護及びハイリスク新生児の特徴を理解し、適切な看護を学ぶ。 2、女性特有の女性器疾患と看護を理解する。 3、母性看護で必要な看護技術を学ぶ。 4、事例を通して新生児と母親が地域で生活するために必要な看護をするための看護における臨床判断を学ぶ。
	小 児 看 護 学	小児看護学概 論	1	30	講義	1、小児看護の特徴、健康な小児の日常生活の保持・増進、小児看護の目的、役割、機能について学ぶ。 2、小児を取り巻く社会情勢を理解し、法制度、施策及び子どもの権利について学ぶ。 3、健康な小児の成長発達を学ぶ。 4、子どもと家族を看護する際の倫理的課題を明らかにする。
		小児看護学 方法論	1	30	講義 演習	1、小児の疾病・障害の病態を理解し、健康障害に応じた看護を理解する。 2、健康障害が小児と家族に与える影響を理解し予防、健康の回復及びよりよい成長・発達への看護支援を学ぶ。 3、事例をもとに子どもと家族の看護を行う上での倫理的課題を明らかにし対処方法を学ぶ。

教育内容		科目	単位	時間	講義 形態	科目目標
		小児看護学 技術	1	30	講義 演習	1、健康障害が小児及び家族に及ぼす影響を理解し、小児の症状・検査・処置に応じた看護援助の方法と看護アセスメントを学ぶ。 2、小児と家族のおかれた環境、生活に適応できるための援助技術を学ぶ。 3、小児の成長・発達をふまえたアセスメントができ、個々の小児に応じた看護が展開できるための看護における臨床判断を学ぶ。 4、事例を通して子どもと家族が地域で生活するために必要な看護するための看護における臨床判断を学ぶ。
	精神看護学	精神看護学概論	1	30	講義	1、人間のこころの働きと発達、発達課題、現代におけるこころの問題を学ぶ。 2、精神保健医療を取り巻く社会情勢と法制度、施策、および精神を病む人への権利を理解し精神看護の役割を学ぶ。 3、精神科医療における倫理的課題を明らかにする。
		精神看護学 方法論	1	30	講義 演習	1、精神症状と精神疾患を学び、入院から退院・地域での生活を含め精神を病む人へ対象に応じた援助の看護援助を学ぶ。 2、精神科での検査、治療を理解し、精神を病む人への適切な看護を学ぶ。 3、事例をもとに精神を病む人の看護を行う上での倫理的課題を明らかにし対処方法を学ぶ。
		精神看護学技術	1	30	講義 演習	1、患者と看護者関係を築いていく上で必要な自己理解、他者理解のための知識・技術・態度を学ぶ。 2、事例を通して精神を病む人が地域で生活するために必要な看護をするための看護における臨床判断を学ぶ。
	領域横断	看護的思考の 基礎	1	30	講義 演習	看護を実践するにあたり、看護と看護に必要な基礎要素や看護理論を使って、対象やその場の状況を判断し、看護として介入をすることが必要である。そこで、看護を実践するため基礎要素や看護理論、その他看護に必要な知識と看護実践の思考過程の関係性を明らかにし、それらを使いながら看護を考えることができるための基礎を学ぶ。 1、考え方の基礎となるクリティカルシンキングとメタ認知について学ぶ。今後、クリティカルシンキングを使って

教育内容		科目	単位	時間	講義 形態	科目目標
						考えるための使い方を学ぶ。 2、看護におけるものの考え方の基礎となる看護過程について学び、事例を使い実践できる。
		看護と療法	1	30	講義 演習	専門基礎分野の「看護臨床判断の基礎」の科目で身体の機能と働きが病気によってどのように変化し、症状として現れるかの学びを受け、薬物療法・栄養療法・放射線療法など療法による患者の心身への影響や、看護について学ぶ。また、セルフマネジメントの確立のための看護の考え方と介入方法を学ぶ。 1、事例を用いて薬が用いられる疾患の理由と投与前の準備から投与後の経過観察まで一連のプロセスを理解し、適切に使用できるように学ぶ。 2、事例を用いて栄養療法がおこなわれる疾患の理由と食事療法での看護としての留意点を学ぶ。 3、事例を用いて放射線療法が用いられる疾患の理由と放射線療法前・中・後の一連のプロセスを理解し看護を学ぶ。 4、セルフマネジメント支援のために、学習支援の理論を理解し技法を学ぶ。
		家族看護学	1	30	講義 演習	家族を看護として支援するために理論と看護展開方法を学ぶ。 1、家族看護の対象を理解し、家族看護を支える理論と介入方法を学ぶ。 2、事例を通して、各場面での家族への看護介入を考え、実践できる。
		医療安全	1	15	講義 演習	看護を実践する中で最も重要な「安全」の視点から医療安全の取り組みの実際及び医療事故発生メカニズム、医療事故を未然に防ぐための方法まで系統的に学ぶ。 1、医療安全を学ぶことの大切さと共に事故発生メカニズム、事故防止について学ぶ。 2、医療事故を起こした時の対応方法について学ぶ。 3、自らが起こしたヒヤリハット事例を使って、インシデント分析を行い、原因を明らかにできる。
		看護倫理	1	30	講義 演習	看護倫理の基礎的考え方は看護学概論Ⅰで学び、その後実習を経て自らが経験した場면을倫理的視点で振り返り、そこに含まれる要素を明らかにし、倫理的課題を考え

教育内容		科目	単位	時間	講義 形態	科目目標
						ていくことを繰り返し行い身につける。 1、自らが経験した実習場면을振り返り、そこにある倫理的課題を明らかにする。 2、倫理的問題へのアプローチ法を用いて考える。 3、倫理的ジレンマに気づき、倫理的ジレンマへの向き合い方を学ぶ。
		専門職連携と チーム医療	1	15	講義 演習	1、チーム医療の必要性、目的、意義について理解する。 2、専門職連携と協働について理解し、チーム医療の実際を学ぶ。 3、退院に向けての事例を通して、他職種の意見を聞き看護の視点と異なる意見を聞く。他職種の意見を参考に支援の方向性を探る。(医師会病院のコメディカルと看護師にグループワークに参加してもらい意見を聞く)
	看護の 統合と 実践	看護管理	1	30	講義	1、既習の知識・技術・態度を統合し望ましい臨床実践マネジメント基礎能力を身につける。 2、チーム医療及び他職種との協力の中で看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを理解する。 3、看護の広がりとして、国際社会において看護師として諸外国との協力を考え異文化を理解し文化を考慮した看護を学ぶ。看護師として、よりよい社会づくりに貢献することの意味を考える。
		災害看護	1	15	講義 演習	1、災害サイクル各期の看護の基礎知識を理解するとともに各領域の対象が被災した場合の看護について学ぶ基本とする。 2、被災して避難した場合の避難所での看護の必要性を学ぶ 3、災害現場で DMAT として実践を行っている看護師に災害時での看護の実際を学ぶ
		看護技術統合	2	60	講義 演習	状況を判断し、最善の看護を行うために既習の判断のプロセスを使って看護を実践する。 1、対象の状態を既習の知識を組み合わせ理解し、必要な看護を判断し実践できる。(特に日常生活援助技術) 2、臨床に近い状況を既習の知識を組み合わせ理解し、今看護師としてできることを判断し実践できる。(多重課題への取り組み) O S C E を用いての試験を実施する。

臨地実習

ねらい：学内で学ぶ前に、実際の臨地で対象と関わり、臨地で起きていることを経験することで、経験を学内で理論として概念化していきます。また、学内で学んだ知識・技術を看護実践の場に適応し、科学的根拠・論理的思考に基づき、対象者を生活者として捉えた上で、対象者個々に応じた看護を判断し、提供できる臨床実践能力を身につけます。

教育内容		科目	単位	時間	講義形態	科目目標
専門分野	実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	30	実習	病院や病棟で働く人々、看護師の動きについて見学、体験することで今後の学びの具体的なイメージができるようにする。実習での学び方を学ぶ。 1、病院の構造、配置を理解し、病院が持つ役割を知る。 2、病院で働く様々な職種を知る。 3、病棟の構造、環境を理解し、看護師について実際に看護を見学する。
		基礎看護学実習Ⅱ	1	45		看護技術を提供するための考え方をを使い、実際に患者へ看護技術を提供する。 1、患者のベッドサイドで気になることを見出し、看護の視点へ転換するとともに、それをもとに系統的に患者理解に必要な情報を収集する。 2、行われている日常生活援助の意図を患者理解を進めながら理解し、患者に適切な看護技術を考え実施できる。
		基礎看護学実習Ⅲ	2	90	実習	1、ヘンダーソンの理論を用い、健康上の問題をもつ患者の身体アセスメントを行い、看護実践のプロセスを学ぶ。
		地域・在宅看護論実習Ⅰ	1	45	実習	1、地域の様々な場所で生活する人々の暮らしを知る。
		地域・在宅看護論実習Ⅱ	2	90	実習	在宅で生活する療養者と家族を理解し、対象が望む生活を支援する看護を学ぶと共に地域包括ケアシステムと連携を学ぶ。 1、地域で療養しながら生活する人とその家族を理解する。 2、療養者と家族の自立、生活の質の向上を支援するための基礎的能力を培い高める。 3、療養者と家族への権利保障（人権尊重・倫理的配慮）について考え行動する。 4、在宅で生活する療養者と家族を支えるシステム、支援、

教育内容		科目	単 位	時間	講義 形態	科目目標
						職種を理解し、連携について学ぶ。
		成人看護学 実習Ⅰ	2	90	実習	看護の対象者の状態、状況、場面の看護としての臨床判断を行い、対象に適した看護の実践を学ぶ。 成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ共通 1、患者の病期を判断し、患者を看護するための思考過程に病期の特徴を加味して患者の状態・看護の必要性の判断を行い看護の実践を行う。 2、保健医療福祉チームの機能を理解し、医療チームの人々との連携・協働を学ぶ。
		成人看護学 実習Ⅱ	2	90		1、受け持ち患者の状態（場面）に対する判断を行う。 基礎からの患者理解の思考を使って、早く系統的な情報収集を行う。 2、患者の状態や状況（場面）の判断に必要な患者の全体像を明らかにする。 3、状況（場面）の判断を行う。 一般的な知識と患者理解を合わせて場面で何が起きているか判断し、実施することの優先順位を考える。 4、看護実践においては、看護理論と結びつけ対象の個性、目標の明確化、患者に応じたケアを導き出し、実施する。
		老年看護学 実習Ⅰ	2	90		老年期の対象の生活の場を知り、老年期の対象を理解する。 1、生活する高齢者をアセスメントする。 2、家庭での治療の継続と、充実した生活を送るために必要な援助について考える。 3、高齢者の人生の価値観を学ぶ。 1、施設に入所する高齢者を理解し、家族への支援の必要性を学ぶ。 2、高齢者に対して安全な看護技術の実施を行う。 3、高齢者ケアシステムを理解し、他職種との連携・協働の実践を学ぶ。

教育内容		科目	単 位	時間	講義 形態	科目目標
		老年看護学 実習Ⅱ	2	90		入院生活を送る高齢者の状態、状況の判断と必要な看護を学ぶ 1、入院している高齢患者の状態、状況を判断し老年看護の目的を踏まえた看護の実践を学ぶ。 2、高齢者の意思を尊重し「意図的行動」への支援について学ぶ。 3、高齢者ケアシステムを理解し、他職種との連携・協働の実際を学ぶ。
		母性看護学 実習	2	60		1、周産期の看護を学ぶ。 1) 正常な妊娠、分娩、産褥の母親のアセスメントをし、援助方法を学ぶ。 2) 新生児のアセスメントをし、援助方法を学ぶ。 3) 母親としての自覚を高める援助や、家族の支援の方法を学ぶ。 4) 母性看護の技術を学ぶ。 2、生活をしている母子の健康管理について学ぶ。 3、地域で生活している母子の実際や、母親の思い、悩み等を理解し、支援の実際を学ぶ。
		小児看護学 実習	2	90		小児の対象の特徴を理解し、生活している小児を知ること、対象に適した看護を学ぶ。 1、小児各期の成長・発達に応じた健康な日常生活の援助を理解する。 2、地域における子どもの健康管理と継続看護の機能を学ぶ。
						1、健康障害が患児と家族に及ぼす影響を理解する。 2、入院中の患児と家族の看護上の問題を理解する。 3、子どもに対し安全で安楽な援助技術を実践する。
		精神看護学 実習	2	90		精神疾患患者の看護の実践を学ぶと共に患者との関係性構築のために必要な自己理解・他者理解・関係性を理解する。地域で生活するための支援の実際を知る。 1、患者との関わりを通して自己理解を深め、コミュニケーション技術を学ぶ。 2、精神に健康障害のある一人の人間を理解する。 3、精神障害が日常生活に及ぼす影響と対象にあわせた援助のアセスメントを学ぶ。

教育内容		科目	単位	時間	講義 形態	科目目標
	実 習					4、精神症状のアセスメントを学ぶ。 5、地域で生活するために行われている支援の実際を知る。
		看護の統合と 実践実習	2	90	実習	看護における臨床判断の思考を使って、患者の状態と看護の必要性の判断、看護場面で起きていることの判断と看護として実施することの判断を行う。 1、複数患者を受け持つ事により、これまで培ってきた看護における臨床判断を使って患者を理解し、看護のマネジメントを考えた看護実践を行う。 2、夜間実習を経験し、夜間に起きている場면을看護として理解する。 3、看護のリーダーシップ・メンバーシップを体験し、実務としての看護臨床判断の実際を学ぶ。 4、診療の補助技術を見学及び経験する。 5、自己の課題を明らかにし、自分の将来像について述べる。 6、自己が判断できることと判断できないことの区別ができるようにする。

令和6年度 学年歴

行 事	学年	日 程
入学式	1	令和6年4月4日(木)
入学後教育	1	令和6年4月5日(金) 4月8日(月) 4月9日(火)
戴帽式	1	令和6年10月24日(木)
卒業式	全	令和7年3月6日(木)
オリエンテーション	全	実習オリエンテーション 長期休暇前後オリエンテーション
解剖見学	2	令和6年5月14日(火)
学校祭 (文化祭) (運動会)	全	令和6年6月8日(土) 令和7年2月20日(木)
宿泊研修	1	令和6年11月8日(金)～11月9日(土)
就職フォーラム	1・2	令和6年12月
健康診断	全	1年生 令和6年4月18日(木) 2年生 令和6年4月17日(水) 3年生 令和6年4月25日(木)
特別講義 (聖マリア病院周産期見学・講義)	2	令和6年12月11日(水)
防災訓練	全	令和6年6月14日(金)
国家試験対策	全	国家試験ガイダンス
国家試験	3	令和7年2月16日(日) 予定
夏季休業	全	令和6年8月5日(月)～8月30日(金)
冬季休業	全	令和6年12月23日(月)～令和7年1月3日(金)
春季休業	全	令和7年3月18日(火)～3月31日(月)

教育内容別、教科外活動時間数

目的				1年	2年	3年
1、社会に適応する能力を養う。 2、探究心を刺激し、主体的行動を支援する。	入学式		入学に際し看護学生としての自覚と誇りをもつ。	2		
	戴帽式		看護を志すものとして役割と責任、誇りを自覚すると共に、今後の学習への動機づけとする。	2		
	卒業式		専門職業人として、社会の中で貢献する事への自覚をもつ。	2	2	2
	研究指導	6 4	学生の基礎能力に応じ、基本となる知識及び方法を身につける。	6	12	46
	オリエンテーション	6 2	看護への興味・関心を示し、主体的学習の動機づけとする。	26	8	28
	学校祭及び自治活動	5 4	主体的活動を通して、人間関係・コミュニケーション・自主性・創造性を養う。 地域との交流を深め、社会に還元する力や感性を養う。 さまざまな芸術文化に触れ、人としての常識・礼節を学び、豊かな感性、創造性を育む。 生活の中に必要な個人そして人と人との関係におけるコミュニケーションを学ぶ。	20	22	12
	健康診断	6	自己の健康に関心を持ち、健康管理の重要性を理解する。	2	2	2
	特別講義	1 8	豊かな人間性を育むとともに、人権意識を高め、社会人としての責任感を身につける。医療英語を楽しむ。	2	8	8
	防災訓練	6	災害時の対応の仕方を学ぶ。集団としての防災活動と個人としての役割を訓練を通して学ぶ。	2	2	2
	合計	220		64	56	100

授業科目	論理的思考	講師名	末吉 康幸	
	開講年次：1 年次前期	単位	時間数	
		1	30 時間（試験含）	
授業科目 目標	1. 先入観を捨てて物事を冷静かつ論理的にそして多面的に見るための思考の方法を学ぶ。 2. 日常の出来事（事実）に対して、自分で考えるという力をつけ、言語化表現や、討論法を学ぶ。			
ねらい	先入観を捨てて物事を冷静かつ論理的にそして多面的に見るための思考の方法を学び、日常の出来事（事実）に対して、どのような推理が可能なのか、体系的に考えられる力を養う。			
授業計画				
単元名		教育内容	時間	方法
1. 否定		① 両立可能・対立・否定 ② 全称(非存在)文と特称(存在)文・ドモルガンの法則 ③ 否定練習問題	30	講義
2. 条件構造		① 条件文の意味と構造 ② 条件文と推論 ③ 条件構造練習問題		
3. 推論の技術		① 全称文と特称文の推論・消去法 ② 背理法 ③ 推論の技術練習問題		
4. 論証の構造		① 前提と帰結		
5. 論証図式		① 複合論証 ② 隠された前提や結論		
6. 論証の評価		① 演繹的論証と帰納的論証 ② 複合論証の評価 ③ 論証の評価練習問題		
7. 試験				
評価方法及び 評価基準		筆記試験 80 点 演習レポート 20 点		
テキスト		講師作成		
参考文献		「新版論理トレーニング」 野矢茂樹（産業図書）		

授業科目	物理学	講師名	大久保 博		
	開講年次：1 年次前期	単位	時間数		
		1	30 時間（試験含）		
授業科目 目標	1、看護技術で用いる「力」「圧力」「熱」など看護を行う上で必要な物理学を学ぶ。 2、看護を实践するうえで、物理学的視点を実践の根拠として活用できる。 3、人体の運動力学や、医療機器の作動原理に関する基礎知識を理解する。				
ねらい	看護技術で用いる「力」「圧力」「熱」など看護を行う上で必要な物理学を学ぶ。人体の運動力学や、医療機器の作動原理に関する基礎知識を理解する。 看護を实践するうえで、物理学的視点を実践の根拠として活用できる				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
看護行為と物理	①看護師が物理を学ぶ理由を体験を通して考えてみよう ・人を動かす			4	講義
1、身体・身体ケアに関する物理	①移動動作 スカラーとベクトル ②体位変換 トルクとてこ ③重さと重心 ④摩擦力 ⑤耐熱産生と喪失 ⑥胃洗浄とサイフォン			10	
2、検査・治療・処置に関する物理	①血圧 ②低圧持続吸引装置の原理 ③酸素ボンベ、真空管採血の原理 ④浸透圧 ⑤ファイバースコープの原理 ⑥放射線の特徴 ⑦超音波			10	
力学を人体に適用する	①授業の初日に体験したことを物理を使って実施してみよう ・基礎看護学；移乗・移動を一緒にやってみよう			4	
6. 試験				2	
評価方法及び 評価基準	筆記試験 100 点				
テキスト	医学書院 系統看護学講座 別巻 物理学				
参考文献					

授業科目	哲学	講師名	清水 満	
	開講年次：1 年次後期	単位	時間数	
		1	30 時間（試験含）	
授業科目 目標	1、看護の対象としての人・人間をどうとらえるか、先人の実践から看護の哲学を学ぶ。 2、先人の知見をもとに、自らの人・人間の捉え方を討議を通して深める。			
ねらい	看護の対象としての人・人間をどうとらえるか、先人の哲学者の考えを学び、先人の知見をもとに、 自らの人・人間の捉え方を討議を通して深める。答えのないものを考え続け自分なりの現時点での答 えを見出す過程を経験し、他教科の土台として人間をとらえる機会とする。			
授業計画				
教育内容			時間	方法
1. 人間とは	カントの人格主義 人間は手段ではなく目的である	2	講義 GW ディス カッシ ョン	
2. ケアの思想	フィヒテの承認論とメイヤロフのケア論	2		
3. ケアの実践（1）	パッチ・アダムスのケアの実践	2		
4. ケアの実践（2）	前回の続きとケア・クラウン	2		
5. ばい菌論	環境哲学にかかせない細菌・ウィルスの真実	2		
6. ナイチンゲールの看護 思想	誤解されてきたナイチンゲールの看護の哲学を学ぶ	2		
7. 看護修道女の哲学	フィレンツェの「イノチェンティ養育院」「熊本慈恵病院」のケアの姿 を学ぶ	2		
8. 訪問看護の思想	「コール・ザ・ミッドワイフ」の実践に学ぶ	2		
9. 障がいを考える	障がい学入門	2		
10. 優生思想と医療	旧優生保護法、ハンセン病対応など、医療界を支配した優生思想をナチ スの事例で考える	2		
11. 優生思想と出生前検査	出生前検査のもつ哲学的・倫理学的意味を考察する	2		
12. 地域を耕す	医療はソーシャルワーク かねはら小児科（下関市）の挑戦	2		
13. 「精神病院」を考える	20 世紀の思想家フーコー、バザーリアなどの精神医学論を考える	2		
14. 女性と子どもを支える	看護職として今の親たちと子どもの問題にどう対応するか	2		
15. 試験	筆記試験			
評価方法及び 評価基準	試験 80％ リフレクションカード10％ 受講態度10％			
テキスト	なし			
参考文献	講義で講師が紹介			

授業科目	心理学	講師名	岡村 尚昌	
	開講年次：1 年次前期	単位	時間数	
		1	30 時間（試験含）	
授業科目 目標	1、学生が自己と自己の反応を心理学的視点で理解することで自己の状況を客観的に判断することができる。 2、対象の心理を反応や言動から心理学的視点で考え、対象理解をするために人間の心理や行動の基礎にある原理を学ぶ。			
ねらい	人間理解のために必要な行動や認知に対する基礎的な知識を理解する。さらに、それらを体験学習や演習を交えて習得する。医療事故に至る人間の認知の特徴や集団が人の判断や行動に及ぼす影響について基礎的知識を学ぶ。			
授業計画				
単元名	教育内容		時間	方法
1. 心理学の発展	①心理学の対象 ②心の見方の歴史 ③心理学の研究方法		2	講義
2. 知覚の心理	①知覚の成立 ②知覚の種類 ③知覚研究の応用		2	
3. 記憶の心理	①記憶の諸相 ②忘却の心理 ③記憶のくふう		2	
4. 思考・想像・言語の心理	①思考作用 ②思考力の発達 ③創造性 ④想像の心理 ⑤言語の心理		4	
5. 知能の心理と知能検査	①知能の心理 ②知能検査		4	
6. 学習の心理	①学習理論 ②学習に影響する条件 ③練習の心理		2	
7. 感情・情緒・情操の心理	①感情の心理 ②情緒の心理 ③情操の心理 ④気分 ⑤情緒障害		2	
8. 適応の心理	⑥感情・情緒の異常 ①人と環境の心理 ②適応・不適応 ③適応の機制		2	
9. 性格の心理と性格検査	①性格の形成 ②性格の理解		4	
10. 集団の心理	①集団の形成と機能 ②群集心理 ③世論 ④コミュニケーション		2	
11. 発達の心理	①発達の原理 ②発達段階の特徴		2	
12. 試験			2	
評価方法及び 評価基準	筆記試験 100 点			
テキスト	講師作成			
参考文献	シリーズ医療の行動科学Ⅰ 北大路書房			

授業科目	発達心理学	講師名	穴井 千鶴	
	開講年次：1 年次後期	単位	時間数	
		1	30 時間（試験含）	
授業科目 目標	1、心理的発達が、乳幼児期から老年期までのライフサイクルの中で密接に関連していることを理解する。 2、看護の対象を「一生発達し続ける存在」として捉え、その存在を系統的に理解し発達のための支援を学ぶ。			
ねらい	看護の対象を「一生発達し続ける存在」として捉えるために、心理的発達は乳児期から老年期までのライフサイクルの中で密接に関連していることを理解する。			
授業計画				
単元名	教育内容		時間	方法
1、講義のガイダンス	①授業の進め方・評価方法の確認 ②発達心理学の概要		2	講義
2、発達理論	①発達理論と歴史 ②発達段階			
3、胎児期・新生児期	①低出生体重児とリスク因子 ②新生児の能力とその能力測定方法 ③親と子の相互交渉		2	
4、乳児期	①微笑みと人見知り ②愛着(アタッチメント)の形成 ③エリクソンの乳児期発達課題 ④コンピテンス		2	
5、幼児期（Ⅰ）	①幼児の認知能力の発達 ②ピアジェの認知発達理論(感覚運動段階・前操作段階) ③自己統制(セルフコントロール) ④社会的参照		2	
6、幼児期（Ⅱ）	①幼児の社会性の発達 ②言語獲得理論と言語発達過程 ③コミュニケーションスキルや遊びの発達		2	
7、児童期	①学校への適応課題 ②自己肯定感・自尊感情 ③エリクソンの児童期発達課題		2	
8、思春期	①友人関係の意義 ②思春期の特徴(第二性徴)と危機 ③身体変化へのとまどいと受け入れ		2	
9、青年期の心の発達	①エリクソンの青年期発達理論 ②アイデンティティの確立課題		2	
10、成人初期	①社会への参入時期の課題 ②職業、パートナー選択 ③エリクソンの成人初期発達課題		2	
11、成人中期	①成人中期のライフコース ②子育ての楽しさ つらさ ③エリクソンの成人中期発達課題		2	
成人後期	①成人後期の特徴 ②家庭・職場における役割の変化 ③エリクソンの成人後期発達課題(アイデンティティの再構築)		2	
12、老年期	①高齢期の健康観 ②加齢による心身・認知機能の変化 ③人生を回顧する ④エリクソンの老年期発達課題 ○発達しようがいの基礎知識			
発達障がい				
13、発達を支援する（Ⅰ）	○様々な発達障しようがいに対する理解		6	
14、発達を支援する（Ⅱ）	○様々な発達障しようがいに対する具体的な支援方法			
15、試験			2	
評価方法及び評価基準	筆記試験 70 点 演習レポート 30 点			
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ精神看護学①情緒の発達と精神看護の基本			
参考文献				

授業科目	組織論	講師名	大塚 まり子		専門領域	
					看護師：(看護師として病院に勤務)	
	開講年次：1 年次後期		単位	時間数	実務経験年数	
			1	30 時間 (試験含)	41 年	
授業科目 目標	1、看護師として働くうえで必要な組織の成り立ち、組織と人の関係を理解する。 2、組織の中で働くことの意味を理解し、組織の中での自らの働き方について考える。					
ねらい	看護師として働くということは、組織で働くということである。組織で働くために必要な組織の成り立ちや組織の目的など組織で働く基礎を理解する。今後、組織の中で働くことの意味を理解し、組織から受ける影響と組織が個人から受ける影響を双方向から理解することで自らが組織で働くことの意味を考えるきっかけとする。					
授業計画						
教育内容					時間	方法
組織論の基礎	①組織とは ②組織の構造 ③組織デザイン (組織の基本形) ④組織文化 ⑤組織の境界線 ⑥ヒューマンサービス組織				4	講義 演習
看護組織の基礎						
	①看護組織の変遷 ②病院組織 ③病院と専門資格 ④保健医療機関 ⑤看護師が働く 場所 ⑥看護行政組織				4	
集団の中の人間 関係	①集団の構造と成員の行動 ②集団形成と集団機能 ③集団への同調と反発				6	
個人レベルの組 織論	①モチベーション ②プロフェッショナル				6	
集団レベルの組 織論						
	①リーダーシップとフォロアーシップ ②人事制度 ③医療・看護サービスの質保証				6	
組織の中で働く ということ	組織の中で働くということへの準備段階としての看護学校での学び方				2	
試験						
評価方法及び 評価基準		筆記試験 ・ レポート課題 100 点				
テキスト		メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践 看護管理 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学 看護学概論				
参考文献		講義で講師が紹介				

授業科目	解剖生理学 I	講師名	首藤 隆秀	
	開講年次：1 年次前期	単位	時間数	
		2 単位	60 時間（試験含）	
授業科目目標	1、看護に必要な生命体として捉えるために、人体の構造（解剖）と機能（生理）について健康、疾病を理解する上での基盤として系統立てて理解し、人間を対象とした看護に応用できる基礎的能力を身につける。			
ねらい	看護に必要な人間の「構造」と「機能」を学び対象を理解するために必要な基礎知識として解剖生理学を修得する			
授業計画				
単元名	教育内容	時間	方法	
1 章：解剖生理の基礎知識	①人体の素材、細胞組織、構造と機能	2	講義	
7 章；消化器系	①食欲 ②咀嚼 ③嚥下 ④消化 ⑤吸収 ⑥排泄	8		
6 章：呼吸器系	①呼吸器系の構造と機能 ②呼吸のプロセス ③呼吸の調節	8		
5 章：循環器系	①心臓 ②血管と循環 ③リンパ系	8		
4 章：血液	①血液の機能と成分 ②血球とその機能 ③血液型と輸血	8		
8 章：泌尿器系	①腎臓 ②尿管 ③膀胱 ④尿道 ⑤排尿の生理	8		
9 章：内分泌系	①内分泌系とホルモン ②脳にあるホルモン分泌器官 ③甲状腺 ④上皮招待小体 ⑤膵臓 ⑥副腎 ⑦性腺 ⑧その他のホルモン分泌器官 ⑨内分泌系の成長と老化	10		
15 章：免疫系	身体機能の防御と適応 ①免疫機能 ②生体の防御機構	6		

	③体温調節 試験	2	
評価方法及び 評価基準	筆記試験 100 点 試験時間は90分です。		
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 解剖生理学		
参考文献			
備考			

授業科目	解剖生理学 II	講師名	首藤 隆秀	
	開講年次：1 年次後期	単位	時間数	
		1 単位	30 時間（試験含）	
授業科目目標	1、看護に必要な生命体として捉えるために、人体の構造（解剖）と機能（生理）について健康、疾病を理解する上での基盤として系統立てて理解し、人間を対象とした看護に応用できる基礎的能力を身につける。			
ねらい	看護に必要な人間の「構造」と「機能」を学び対象を理解するために必要な基礎知識として解剖生理学を修得する			
授業計画				
単元名	教育内容		時間	方法
11 章：骨格系	① 骨と骨格 ② 頭蓋骨、体幹の骨格 ③ 体肢の骨格 ④ 関節の構造と種類 ⑤ 骨格系の成長と老化		8	講義
12 章：筋系	① 筋の種類 ① 筋の機能 ② 身体の運動と骨格筋 ③ 骨格筋の解剖生理 ④ 筋系の成長と老化		6	
13 章：神経系	① 神経系の分類 ② 神経組織の構造と機能 ③ 中枢神経系 ④ 末梢神経系 ⑤ 生体のリズム		10	
14 章：感覚系	① 感覚の特徴 ② 視覚 ③ 聴覚と平衡覚 ④ 化学的感覚 ⑤ 体性感覚 ⑥ 内臓感覚		4	
試験			2	
評価方法及び 評価基準	筆記試験 100 点 試験時間は 60 分です			
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 解剖生理学			
参考文献				
備考				

授業科目	解剖生理学Ⅲ	講師名	首藤 隆秀	
	開講年次：1 年次後期	単位	時間数	
		1 単位	30 時間（試験含）	
授業科目目標	1、看護に必要な人体の構造と機能について理解する。 2、それぞれの章で学んだ臓器と臓器の関連性や生体を調整する神経等の関わりを、グループワークを通して学ぶ。 ・看護に使える解剖生理学の前段階として、各臓器がつながっていることを理解する。 ・解剖生理学に対し興味関心を持つことができるように、自らの身体を使って学ぶ。			
ねらい	人間の「構造と「機能」を看護で活用するために、それぞれの章で学んだ臓器と臓器の関連性や生体を調整する神経や血管との関係を、グループワークを通して学ぶ。 ・看護に使える解剖生理学として、各臓器がつながっていることを理解し、解剖生理学に対し興味関心を持つことができるように、自らの身体を使って学ぶ			
授業計画				
単元名	教育内容	時間	方法 講義	
10 章：生殖器系	① 女性生殖器 ② 男性生殖器	4		
1. 生殖・発生と老化の仕組み	①発生 ②老化	4		
2 消化器の臓器と他臓器の関係や血管、神経の働きを食べるという行為を通して学ぶ	「食べる」行動の一連について学習する ①学習の視点に基づいて、しくみと機能について学習しまとめる ＊1 グループが1つの学習の視点を選択する ②学習内容を発表する ③発表および質疑応答を通し、クラスで「食べる」の一連の流れを共有する 授業ガイダンス／学習計画書作成Ⅲ 計画に沿って学習 計画に沿って学習 中間発表会	10 (2) (2) (2) (4) 10		
3 自らの身体を使って、身体の構造と機能を解明する	「食べる」に関連した、自己の興味・関心のあることをフォーカスし、実験・検証する ①前半で学習したことから、下記の視点でフォーカスしたい内容を取り上げ、まとめる 〈視点〉 気になったこと、興味をもったこと、発見したこと 深めたいこと ②学習方法として、文献検索に留まらず、自分達の身体を使ったり、実験データを収集する ③学習内容について理論を用いて裏づけを行う ⑤ 学習成果を発表し合い、学びをクラスで共有する	 <		

授業科目	生化学	講師名	大沼 雅明		
	開講年次：1 年次前期	単位	時間数		
		1	30 時間（試験含）		
授業科目目標	1、人体を構成する化学物質の性状及び代謝について学ぶ。 2、生体機能を正常に維持する役割をもつ物質、生体が正常状態から異常状態へ変化する際に関連する経路について学ぶ。 3、疾患に罹患することによっておこる身体の変化のメカニズムを理解し、臨床での看護の判断力の基礎を養う				
ねらい	人体を構成する化学物質の性状および分布、代謝について学び、健康や疾病のメカニズムを判断できる力を養う。				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
1. 代謝総論	①代謝とは ②異化と同化 ③代謝とその制御 ④ホルモンの作用と代謝の調節			2	
2. 糖質の構造と性質	①糖とは何か ②単糖類 ③オリゴ糖類 ④多糖類			2	
3. 脂質の構造と性質	①脂質の構成 ②脂肪酸 ③中性脂肪 ④ステロイド類 ⑤ リン脂質 ⑥ 糖脂質			2	
4. アミノ酸・タンパク質の構造と性質	① タンパク質とは ②アミノ酸 ③タンパク質の構造 ④タンパク質の性質 ⑤タンパク質の種類			2	
5. 酵素	①酵素の役割 ②酵素の性質 ③酵素の分類 ④アイソザイム			2	
6. 糖質代謝	①解糖のしくみ ②グリコーゲンの合成と分解 ③糖新生 ⑤ペントースリン酸回路 ⑥血糖の調節とホルモンの作用			4	
7. 脂質代謝	①脂質の消化吸収 ②脂肪酸の分解 ③ケトン体の代謝 ④コレステロールの代謝 ⑤リン脂質とエイコサノイド ⑥血中リポタンパク質			2	
8. アミノ酸・タンパク質の代謝	①タンパク質の消化・吸収 ②アミノ酸の代謝 ③アミノ酸のその他の使われ方 ④ヘムの生合成とビリルビン代謝			2	
9. 核酸・ヌクレオチドの代謝	①ヌクレオチドの合成 ②ヌクレオチドの分解 ③抗がん薬と免疫抑制薬の作用			2	
10. DNA：遺伝情報を担う物質	①DNA；遺伝情報を担う物質 ②DNAの複製；遺伝情報のコピー			2	
11. DNAからRNAへの転写とタンパク質への翻訳	①DNAからRNAへの転写 ②RNAからタンパク質への翻訳			2	
12. 遺伝子の変化	①病気と遺伝子 ②遺伝子の異常とDNAの変異			2	
13. 先天性代謝異常	①酵素異常による発症のメカニズム ②受容体の異常			2	
14. 試験				2	
評価方法及び評価基準	筆記試験 100 点				
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 臨床生化学				
参考文献					

授業科目	病理学	講師名	池田 圭祐		専門領域	
					医師：(病院にて消化器内科として勤務)	
					実務経験年数	
開講年次：1 年次前期	単位	時間数				
	1	30 時間	34 年			
授業科目 目標	1、疾病の原因と、疾病によって患者の身体に生じている変化を理解し、臨床での看護の判断力を養う。					
ねらい	病気の原因を探り、病気になった患者の身体に生じている変化がどのようなものであるかを明らかにする。また、看護師の立場に立って病理学を学ぶことで、看護の実践に役立てていくことが重要である。					
授業計画						
単元名	教育内容			時間	方法	
1. 病理学の概要	①看護と病理学			2	講義	
2. 先天異常と遺伝子異常	②病気の原因			6		
	③疾病の分類					
	①先天異常とは					
	②遺伝子異常					
	③遺伝性疾患					
3. 代謝障害	④染色体異常による疾患			4		
	⑤胎児の障害					
	⑥先天異常、遺伝子疾患の診断					
	①細胞の損傷と適応					
	②物質沈着					
	③脂質代謝障害と疾患					
4. 循環障害	④タンパク質代謝障害と疾患			4		
	⑤糖質代謝障害と疾患					
	⑥その他障害と疾患					
	①局所性の循環障害					4
	②全身性の循環障害					
③リンパの循環障害						
5. 炎症と免疫	①炎症			4		
	②炎症の各型					
	③免疫					
	④アレルギーと自己免疫					
	⑤移植と免疫					
6. 感染症	①病原体と感染			2		
	②宿主の防御機構					
	③おもな病原体と感染症					
	④感染症の治療					
	⑤感染症の予防					
7. 腫瘍	①腫瘍の定義と分類			4		
	②腫瘍の発生機序					
	③悪性腫瘍の転移と進行度					
	④腫瘍の診断と治療					
	⑤腫瘍の統計					
8. 老化と死	①細胞の老化と個体の変化			2		
	②加齢に伴う諸臓器の変化					
	① 個体の死				2	
	試験					
評価方法及び 評価基準	筆記試験 100 点					
テキスト	医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなり立ちと回復の促進（1） 病理学					
参考文献	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 病態生理学					

授業科目	微生物学	講師名	原 好勇	
	開講年次：1 年次前期	単位	時間数	
		1	30 時間（試験含）	
授業科目 目標	1、それぞれの微生物の特徴と生体に及ぼす影響、メカニズムを理解し、その対応について学ぶ。 2、感染症に罹患した患者の身体で起きていることを理解し臨床での看護の判断力の基礎を養う。 3、近年の感染症の特徴（新興・再興感染症、国境なき感染症、動物由来感染症）について学習し、感染予防の具体的な法律や方法を学ぶ。			
ねらい	微生物の特徴と生態に及ぼす影響を理解させ、その対応について教授する。又、微生物では、ヒトに病気を起こす病原微生物ばかりではなく、生物浄化の役割を担う有用微生物についても学ぶ。最近では、必ずしも病気を起こさない微生物も医学的には問題と「微生物学」の基盤をしっかり学ぶことで看護に役立てたい。			
授業計画				
単元名	教育内容	時間	方法	
1. 微生物の発見	① 微生物の性質と役割について ② 感染症の原因が微生物だと分かるまで	2	講義	
2. 感染とは	① 病原体のヒトへの侵入の仕方、体内での広がり方、症状が出るまでについて。	2	講義	
3. 免疫反応	① 侵入してきた病原体を排除する生体の仕組みについて。 ② 免疫が過剰に反応する場合について（アレルギー）	2	講義	
4. ウイルス感染症 1	① ウイルスの基本的性質について ② かぜの原因となるウイルスについて（新型コロナウイルス、インフルエンザウイルス）	2	講義	
5. ウイルス感染症 2	① 発疹を起こすウイルスについて（麻疹、風疹、水痘・带状疱疹）	2	講義	
6. ウイルス感染症 3	① エイズの原因となるウイルスについて（HIV） ② 蚊・ダニが媒介するウイルスについて（日本脳炎等）	2	講義	
7. ウイルス感染症 4	① 癌をつくるウイルスについて（肝癌、子宮頸癌） ② 世界を震撼させるウイルスについて（出血熱）	2	講義	
8. 細菌感染症 1	① 細菌の基本的性質について ② 医療施設で問題になる感染症について（日和見感染症、薬剤耐性菌）	2	講義	
9. 細菌感染症 2	① 近ごろ話題の細菌について（腸管出血性大腸菌 O157、ピロリ菌、化膿レンサ球菌）	2	講義	
10. 細菌感染症 3	① 食中毒を起こす細菌について（カンピロバクター等） ② 性感染症について（梅毒、性器クラミジア等）	2	講義	
11. 細菌感染症 4	① 今でも問題になる細菌について（結核、百日咳、ジフテリア菌、破傷風菌） ② 特殊な病原体について（リケッチア、クラミジア、マイコプラズマ、プリオン）	2	講義	
12. 真菌および寄生虫感染症	① ヒトに生えるカビについて（アスペルギルス症） ② ヒトに有害な寄生虫症について（マラリア等）	2	講義	
13. 感染対策	① 標準予防策と感染経路別予防策について ② 消毒法と滅菌法について	2	講義	
14. 感染症の治療と予防	① 抗菌薬の働く仕組みについて ② ワクチンの種類について	2	講義	

15. 試験（および講義）	試験の解説
評価・評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	南江堂 イラストで分かる微生物学超入門
参考図書	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 臨床微生物・医動物

授業科目	疾病と治療Ⅰ 呼吸器、アレルギー 循環器	講師名	古賀 丈晴		専門領域 : 医師 病院 (呼吸器・内科) にて勤務	
					実務経験 年数 36 年	
			山部 仁子		専門領域 : 医師 病院 (呼吸器神経・膠原・内科) にて勤務	
					実務経験 年数 21 年	
			堀 真貴子		専門領域 : 医師 病院 (循環器内科) にて勤務	
				実務経験 年数 13 年		
開講年次 : 1 年次前期	単位		時間数			
	1		30 時間			
授業科目 目標 (ねらい)	1、呼吸器疾患・アレルギー疾患と循環器の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と看護における臨床での判断力の基礎を養う。					
授業計画						
単元名		教育内容			時間	方法
《呼吸器》 (古賀先生) 4 時間 (2 回)		1. 呼吸器の構造と機能 2. 症状とその病態生理 3. 検査と治療・処置 4. 疾病の理解・看護			4	講義
(山部先生) 8 時間 (4 回)		・呼吸不全 ・酸素化障害 ・換気障害 ・肺循環障害 ・呼吸器感染症 ・肺がん ・胸膜・縦隔疾患			8	
《アレルギー》 (古賀先生) 4 時間		1. 免疫とアレルギー 2. アレルギーの検査と治療 3. アレルギー疾患の理解 1) 気管支喘息、アレルギー性鼻炎 2) アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触皮膚炎 3) 食物アレルギー、薬物アレルギー 4) アナフィラキシー 4. アレルギー疾患患者の看護			4	
《循環器疾患》 堀先生 (14 時間)		試験 1. 循環器の構造と機能 2. 症状と病態生理 3. 診断と検査 4. 主な疾病と治療 ①先天性心疾患 ②後天性心疾患 ③血圧異常 ④不整脈疾患 ⑤血管の疾患 試験			14	
評価方法及び 評価基準		呼吸器 70 点 (古賀先生 20 点・山部先生 50 点)、アレルギー (30 点) 筆記試験 100 点 循環器 (堀先生 ; 100 点) 筆記試験 100 点 最終評価は 2 回試験の平均点で評価する				
テキスト		メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 【アレルギー】疾患と看護 ; 血液/アレルギー・膠原病/感染症 【呼吸器】疾患と看護 ; 呼吸器 【循環器】疾患と看護 ; 循環器				
参考文献						

授業科目	疾病と治療Ⅱ (消化器疾患 内分泌、代謝疾患)	講師名	福嶋 康道		専門領域 : 医師 病院 (消化器内科) にて勤務)		
					実務経験 年数 14 年		
			河口 康典		専門領域 : 医師 病院 (消化器内科) にて勤務)		
					実務経験 年数 24 年		
				山田研太郎		専門領域 : 医師 病院 (糖尿病・内科) にて勤務)	
					実務経験 年数 46 年		
	開講年次 : 1 年次後期		単位	時間数			
			1	30 時間			
授業科目 目標 (ねらい)	1、消化器疾患と内分泌疾患・代謝疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と看護における臨床での判断力の基礎を養う。						
授業計画							
単元名		教育内容				時間	方法
《消化器疾患》 (福嶋先生) 8 時間		1. 消化器系の構造と機能 2. 症状と病態生理 3. 診断と検査 4. 主な疾病と治療 ・食道の疾患 ・胃、十二指腸疾患 ・腸 (小腸、大腸)、腹膜の疾患 ・肝臓、胆嚢の疾患 ・脾臓の疾患				8	講義
(河口先生) 8 時間		試験				8	
《内分泌、代謝》 (山田先生) 14 時間		1 内分泌代謝系の構造と機能 2. 症状と病態生理 3. 診断と検査 4. 主な疾病と治療 ④内分泌疾患 ①視床下部の異常 ②下垂体の異常 ③甲状腺疾患 ④副甲状腺疾患 ⑤副腎疾患 ⑥性腺疾患 ⑧代謝疾患 ①糖質代謝異常 ②脂質代謝異常 ③タンパク、アミノ酸異常 ④水、電解質の代謝異常 ⑤栄養異常 その他の代謝疾患				2	
		試験				8	
						4	
評価方法及び 評価基準		消化器疾患 筆記試験 100 点 (河口先生 50 点・福嶋先生 50 点) 内分泌、代謝疾患 筆記試験 100 点 最終評価は 2 科目の平均点で評価する					
テキスト		メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 【消化器】疾患と看護；消化器 【内分泌・代謝】疾患と看護；腎/泌尿器/内分泌・代謝					
参考文献							

授業科目	疾病と治療Ⅲ 腎、泌尿器疾患 血液疾患・膠原病 皮膚疾患	講師名			専門領域：医師 病院（泌尿器科）にて勤務） 実務経験 年数 7年
			森山 敦夫		専門領域：医師 病院（腎臓・内科）にて勤務） 実務経験 年数 43年
			草場 信秀		専門領域：医師 病院（血液・内科）にて勤務） 実務経験 年数 34年
			松元 二郎		専門領域：医師 病院（皮膚科）にて勤務） 実務経験 年数 36年
	開講年次：1年次後期		単位 1	時間数 30時間	
授業科目 目標 (ねらい)	1、血液疾患、膠原病、皮膚疾患と腎・泌尿器疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と看護における臨床での判断力の基礎を養う。				
授業計画					
単元名		教育内容		時間	方法
《腎、泌尿器疾患》 (森山先生) 8時間		1. 腎、泌尿器の構造と機能 2. 症状と病態生理 3. 診断と検査 4. 主な疾病と治療 ①腎疾患の治療総論 ・血液浄化療法 ・移植療法 ②腎疾患の治療各論 ・腎不全 ・ネフローゼ症候群 ・糸球体腎炎 ・腎血管性疾患		8	講義
(先生) 6時間		5. 泌尿器疾患 ①基礎的知識 ②主な疾病と診療 ・尿路結石症 ・腎細胞がん ・尿路上皮腫瘍 ・水腎症 ・神経因性膀胱 ・感染症（尿路感染症、性感染症） ・生殖器疾患（前立腺肥大症、前立腺癌）		6	
《血液、造血器》 (草場先生) 12時間		1. 血液、造血器疾患の構造と機能 2. 症状と病態生理 3. 診断と検査 4. 主な疾病と治療 ①赤血球系の疾患 ②白血球系の疾患 ③出血性疾患		8	
《膠原病》 (草場先生)		1. 自己免疫疾患と機序 2. 症状とその病態生理 3. 診断と検査 4. 主な疾病と治療 ①関節リウマチ ②全身性エリテマトーデス		4	

《皮膚疾患》 (松元先生) 4 時間	③全身性硬化症 ④ベーチェット病 1. 皮膚の構造と機能 2. 症状と病態生理 3. 診断と検査 4. 主な疾病と治療 ①表在性皮膚疾患 ②内臓疾患に伴う皮膚病変 ③感染症 ④腫瘍及び色素異常症 ⑤物理、化学的皮膚障害 試験	4	
評価方法及び 評価基準	腎泌尿器 (腎 50 点・泌尿器疾患 50 点) 筆記試験 100 点 血液疾患・膠原病疾患 (70 点) 皮膚疾患 (30 点) 筆記試験 100 点 最終評価は 2 科目の平均点で評価する		
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 【腎疾患・泌尿器疾患】疾患と看護；腎/泌尿器/内分泌・代謝 【血液疾患・膠原病】疾患と看護；血液/アレルギー・膠原病/感染症 【皮膚疾患】疾患と看護；眼/耳鼻咽喉/歯・口腔/皮膚		
参考文献			

授業科目	〔 疾病と治療Ⅳ 脳疾患 運動器疾患 〕	講師名	大浅 貴朗		専門領域 : 医師 (病院 (脳神経外科) にて勤務)	
					実務経験 年数 29 年	
					専門領域 : 医師 病院 〇 にて勤務)	
					実務経験 年数 年	
			単位	時間数		
	開講年次 : 1 年次前期～後期	1	30 時間			
授業科目 目標 (ねらい)	1、脳疾患と運動器疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と看護における臨床での判断力の基礎を養う。					
授業計画						
単元名		教育内容			時間	方法
《脳神経疾患》 (大浅 先生) 14 時間		1. 脳神経系の構造と機能 2. 症状と病態生理 3. 診断と検査 4. 主な疾病と治療 ①脳血管障害 ②神経系の腫瘍 ③神経系の感染症 ④機能性疾患 ⑤神経変性疾患 ⑥脱髄性疾患 ⑦脊髄、脊椎疾患 ⑧末梢神経疾患 ⑨筋疾患 ⑩代謝性疾患 試験			2 2 <	

授業科目	薬理学	講師名	江藤 良典		専門領域	
					薬剤師 (病院(薬剤科)にて勤務)	
					実務経験年数 39 年	
開講年次 : 1 年次後期	単位		時間数			
	1		30 時間 (試験含)			
授業科目 目標	1、薬物の特徴、作用機序、人体への影響を理解する 2、薬物の管理について理解し臨床で活用できる。 3、薬物投与における身体の変化及び生活への影響を理解し、看護の判断につなげる力を養う。					
ねらい	薬物の特徴、作用機序、人体への影響及び薬物の管理を理解し、看護の場面で安全に薬の管理ができるための基礎的能力を養う。 臨床の場で看護師が経験しやすい薬物療法の場面を想定して、薬物の知識や人体への影響、管理方法などを織り込みながら教授します。					
授業計画						
単元名		教育内容			時間	方法
1. 医薬品総論		①医薬品とは ②医薬品の作用原理とその影響 ③薬物動態学 ④医薬品の適正な使用に向けて			4	講義
2. 感染症に使用する薬		①感染症 ②抗微生物薬 (抗菌薬・抗ウイルス薬・抗真菌薬)			2	
3. 免疫疾患・アレルギー・炎症に使用する薬		①免疫のしくみ ②自己免疫疾患の治療薬 ③炎症の治療薬 ④アレルギーの治療薬 ⑤予防接種			2	
4. がん に使用する薬		①がんとは ②がんの薬物療法 ③免疫障害性抗がん薬・分子標的治療薬 ・免疫チェックポイント阻害薬の有害作用とその対策 ④がん性疼痛に使用する薬			2	
5. 末梢神経に作用する薬		①神経系概論 ②交感神経に使用する薬 ③副交感神経系に作用する薬			2	
6. 脳・中枢神経系疾患で使用する薬		①中枢神経系の働きと薬 ②中枢神経疾患の治療薬 ③パーキンソン病治療薬 ④認知症の治療薬 ⑤精神疾患に用いる薬 (向精神薬)			2	
7. 循環器疾患に使用する薬		①循環器と循環器疾患 ②高血圧 ③低血圧 ④不整脈 ⑤狭心症 ⑥心不全 ⑦心筋梗塞 ⑧動脈硬化 ⑨脳卒中 ⑩肺高血圧症			4	
8. 血液・造血器疾患に使用する薬		①血液のしくみ ②貧血治療薬 ③播種性血管内凝固症候群治療薬 ④血友病治療薬 ⑤特発性血小板減少性紫斑病治療薬				

9. 代謝／内分泌疾患に使用する薬	①気管支喘息と薬物療法 ②呼吸器疾患に使用する薬 ③関節リウマチと薬物療法 ④全身性エリテマトーデスと薬物療法	2	
10. 呼吸器疾患に使用する薬	①呼吸器 ②気管支喘息治療薬 ③鎮咳薬 ④去痰薬	4	
11. 消化器系疾患に使用する薬	①消化器系の構造と機能 ②消化器系疾患に使用する薬の分類と特徴		
12. 泌尿器・生殖器疾患に使用する薬	①泌尿器・男性生殖器疾患の治療薬 ②女性生殖器疾患の治療薬	2	
13. 感覚器疾患に使用する薬	①皮膚疾患の治療薬 ②眼科疾患の治療薬 ③平衡感覚障害の治療薬		
14. 周術期・救命救急時に使用する薬	①周術期・救命救急時に使用する薬の特徴 ②医薬品投与による緊急事態 ③ショックに対して使用する薬 ④薬物中毒の治療に使用する薬 ⑤救急カートに必要な薬 ⑥輸液製剤 ⑦麻酔に使用する薬 ⑧輸血療法	2	
筆記試験	臨床の現場で活用する（注意する）薬物療法	2	講義
評価方法及び 評価基準	筆記試験 100 点		
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 臨床薬理学		
参考文献	講義時に提示予定		

授業科目	栄養学	講師名	小島 良子		専門領域
					管理栄養士 (病院にて管理栄養士として勤務)
	開講年次：1 年次前期	単位	時間数	実務経験年数	
	1	30 時間（試験含）	50 年		
授業科目 目標	1、生体に必要な栄養素のはたらきを理解する。 2、栄養と疾病の関係と人の身体で起きている変化を理解し、看護における臨床での判断力の基礎を養う。 3、食事の重要性や食生活に伴う健康問題について学び臨床で活用できる知識を養う。				
ねらい	生体が発育・成長して生命を維持し、健全な生命活動を営むために必要な栄養素のはたらきを理解する。 また、人間が健康な生活を送るためには、食事は重要であり、心身の状態と密接な関係をもっていることを学ぶ。さらに、食生活と生活習慣病の問題など、近年の生活環境やライフスタイルの変遷にともな って生じている課題についても理解する。				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
1. 臨床栄養学の基礎知識	①臨床栄養学の意義と看護 ②栄養と栄養素 ③栄養アセスメント			4	講義
2. 食品成分と食事摂取基準	①食品成分とエネルギー ②日本人の食事摂取基準(2020 年版)			2	
3. 日常生活と栄養	①食文化 ②運動と栄養 ③人生各期における健康生活と栄養			4	
4. 療養生活と栄養	①治療による回復を促すための食事と栄養管理 ②栄養成分別のコントロール食 ③嚥下障害のある人のための食事 ④経口摂取できない患者のための栄養管理			4	
5. 疾患別の栄養食事療法	①消化器疾患 ②内分泌・代謝疾患 ③循環器疾患 ④腎疾患			8	
6. 栄養食事指導の実際	①健康増進のための栄養食事指導 ②食習慣改善のための栄養食事指導			2	
7. 試験	臨床の現場で活用する栄養療法			4	講義 演習
	筆記試験			2	
評価方法及び 評価基準	筆記試験 100 点				
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 臨床栄養学				
参考文献					

授業科目	看護臨床判断の基礎 (看護へつなぐ)	講師名	池田 陽子		専門領域
					専門領域 : 看護師 (病院にて看護師として勤務)
					実務経験 年数 9年
開講年次 : 1 年次前期		単位	時間数		
		1	30 時間		
授業科目 目標	1、解剖生理学・生化学と疾病と治療Ⅰ～Ⅳ、病理学、微生物学の知識のつながり、および薬理学、栄養学の知識のつながりを事例を通して一連の流れとして理解する。 2、病気や検査治療によって引き起こされる身体の変化を身体機能と働きからつなげて考えることで対象の心身で起きていることを理解し、看護における判断力を養う。				
ねらい	疾患を理解するためには、個別に学んだ身体仕組みと働きが病変により変化し症状として出現するということをつなげて理解しなければ検査・治療の意味を理解することはむずかしい。また、その流れが分かっているなければ看護として必要なことを考えることはできない。そこで、病気や検査治療によって引き起こされる身体の変化を身体機能と働きからつなげて考えることで対象の心身で起きていることを理解し、看護における判断力を身につけるための基礎知識として理解することをねらいとする。				
授業計画					
単元名	教育内容	時間	方法		
1. 発熱	1 発熱；科学的刺激による発熱のメカニズム・発熱を起す微生物とのつながり・身体反応・検査・治療（薬物療法：特に抗生物質・食事療法）	2	講義 TBL 反転学習		
2. 高血糖	2 高血糖；糖代謝・解糖の仕組み・血統を調整するホルモン、自律神経 高血糖による身体反応・検査・治療（薬物療法：糖尿病治療薬・食事療法）	4			
3. 脱水	3 脱水；体液（体液の量、浸透圧）酸塩基平衡・低張生脱水のメカニズム・身体反応・検査・治療（輸液の仕組み）	4			
4. 黄疸	4 黄疸；胆汁、肝臓、胆のうの働き・黄疸のメカニズム・肝細胞性黄疸（肝硬変）における黄疸・検査・治療（安静療法・食事療法・薬物療法）	4			
5. 呼吸困難	5 呼吸困難；肺、気管、気管支・呼吸のメカニズム・肺性呼吸困難（慢性閉塞性肺疾患のメカニズム）・身体反応・検査・治療（酸素療法；酸素が生体に及ぼす変化・薬物療法；抗コリン材・β2 刺激薬・吸入ステロイド剤作用のメカニズム）呼吸リハビリテーション	4			
6. 浮腫	6 浮腫（心臓性浮腫）：心臓の働き、機能・心臓性浮腫の発生メカニズム・身体反応・検査・治療（食事療法・安静療法・薬物療法；利尿剤、強心剤作用のメカニズム）	4			
7. 出血傾向	7 出血傾向；血液、止血のメカニズム・血液凝固因子の生成障害（ビタミンK 欠乏）・検査・治療	4			
8. 遺伝疾患	8 遺伝疾患；DNA、複製、RNA 転写、タンパク質への翻訳・染色体異常（ダウン症候群）・遺伝子診断と看護	2			
試験		2			
評価方法及び 評価基準	筆記試験 100 点・小テスト・学習への参加状況				
テキスト	講師作成 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 臨床看護総論				
参考文献	講義内で指示する				

授業科目	医療と社会	講師名	泉 賢祐		専門領域
					社会福祉士(病院にて社会福祉士として勤務)
					実務経験年数 15 年
	開講年次：1 年次前期	単位	時間数		
1		20 時間			
授業科目 目標	1、現代の医療を取り巻く状況の変化の中で、医療がおかれている状況や医療における諸問題を学ぶ。 2、現代の医療を理解するうえで必要な概念を理解する （ノーマライゼーション・インフォームドコンセント・プライマリケア・保健医療福祉システムと地域住民の役割） 3、医療従事者としてどのような姿勢で学んでいくか考えるきっかけとする。				
ねらい	これから看護を学ぶための基本として、医療が社会の中でどのように認識されてきたか、今後医療は社会とどのように関わっていくかを考えることで、医療における今日的な課題と政策、今後医療が向かう方向性について学ぶ				

授業計画			
単元名	教育内容	時間	方法
1. 保健医療と社会学	①社会関係資本 ②公衆衛生と社会医学 ③病者の視点と社会的視点 ④社会システムとしての医療 ⑤保険医療と社会学	2	講義
2. 健康・病気・ストレスの新しい捉え方	①健康・病気の見方・とらえ方の移り変わり ②健康・病気の新しい見方ととらえ方 ③ストレスとストレス、対処、健康・病気		
3. 健康・病気の社会格差	①社会格差と平等 ②健康・病気の社会格差 ③社会格差による健康格差発生のメカニズム ④社会格差是正の取り組みと可能性	2	
4. 働き方・働かせ方と健康・病気	①職業とは ②健康への影響 ③健康に影響を与える職場の要因 ④仕事と生活の調和		
5. 健康・病気行動と病経験	①健康行動と病気行動 ②ヘルスリテラシー		
6. 患者—医療者関係とコミュニケーション	①我が国の患者—医療者関係とコミュニケーション ②患者アドボカシー ③患者と医療者の協働に向けて	2	
7. 保健医療の専門職	①保険医療職種 ②保険医療職種間の協働に向けて	2	
8. 地域社会と保健医療	①コミュニティと地域 ②ソーシャルサポートと社会関係資本 ③ヘルスプロモーションにおける地域 ④地域の保健力	2	
9. 保健医療制度と保健医療の現代的課題	①我が国の保健医療制度 ②我が国の保健医療制度をめぐる課題 ③我が国の医療システムの特徴 ④我が国の医療システムの課題	2	

10. ケアと医療	①ケア論 ②ケア論の社会的意味 ③ケアと医療の新たな関係性に向けて	2	
11. これからの医療の視点	①チーム医療とマネジメント ②インフォームドコンセント ・法律から見た医療 ・インフォームドコンセントの法理 ③プライマリケア ・プライマリケアとは ・日本におけるプライマリケア	6	
評価方法及び 評価基準	筆記試験100点		
テキスト	系統看護学講座、基礎分野、社会学 医学書院		
参考文献			

授業科目	看護学概論Ⅰ	講師名	瓜生 知佳子		専門領域
					看護師・保健師（看護師・保健師として勤務）
			開講年次：1 年次前期	単位	時間数
1	30 時間	7 年			
授業科目 目標	1. 看護、看護学、看護師とは何か、どのような職業なのかを体験をもとに学び、興味・関心をもつ。 2. 看護における重要な要素である看護倫理の基礎を学ぶ。 3. 看護を感得するうえで重要な「健康」「人間」「環境」「生活」を基礎要素として学ぶとともにそれらとの関係性の中で「看護」を考え看護の意義について理解する。 4. 看護理論を使って対象理解や現象の理會の方法を学ぶ。				
ねらい	看護を学ぶにあたって看護の導入として捉えるとともに看護の持つ豊かさや奥深さに触れるきっかけとしたい。				
授業計画					
单元名		教育内容	方法	備考	
1	看護を学ぶ導入	授業方針・授業の受け方 看護とは；事例から看護とは何かを考える	演習	宿題 看護の定義を 3 つ調べてくる	
2	看護とは	看護とは；調べてきた 3 つの看護の定義を使ってグループワーク	グループワーク		
3		グループワーク 1. 発表	発表		
4		様々な看護の定義に触れる	ワークシート		
5		様々な看護の定義に触れる ※看護として理解すべきこと	ワークシート		
6	看護の歴史	看護の過去から現代 ヨーロッパ 近代以前の看護 近代の看護 現代の看護	ワークシート		
9		看護の過去から現代 日本 近代以前の看護 近代の看護 現代の看護	ワークシート		
7	看護とは	実習での学びを元に「看護とは」を考える	ワークシート	実習で見学したことを元に看護について考える	
8		発表			

10	看護の対象としての 人	看護実践における重要な概念 人間について考える	ワークシート	
11		人間にとっての欲求とは	ワークシート	
12	看護に活用する理 論	マズローの欲求階層の看護への転用		
13	人間の健康にかか わる看護職	健康とは 専門職とは	自己学習 ワークシート	
14	看護についての考 察	これからの看護の課題と展望	ワークシート	
15		試験		
・医療、看護で使用する言葉を覚えましょう（毎時間少数問題を出します）				
試験	筆記試験（60分） 授業（30分）			
評価方法および 評価基準	筆記試験：90点、レポート・課題提出：10点（合計100点）			
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ基礎看護学① 看護学概論			
参考文献	授業の中で提示します			

授業科目	基礎看護技術Ⅰ	講師名	皆元 謙治		専門領域 看護師：(病院にて看護師として勤務)
					実務経験年数：15 年
			井上 聡子		専門領域 看護師：(病院にて看護師として勤務)
					実務経験年数：16 年
	朝倉 美弥香				
開講年次：1 年前期		単位	時間数		
		1 単位	30 時間（試験含）		
ねらい	看護を行う上で基礎となる看護技術である。 看護の判断を使って、看護の実践を行うために必要な技術を学ぶ。 1. 看護技術を行うため必要な技術の考えを学ぶ 2. 人間関係を成立させるための技術としてのコミュニケーションの基礎的知識を学び、ロールプレイを行いながら看護の場面で活用できるための能力を身につける 3. 看護実践のベースとしての感染予防と医療安全を学ぶ 4. 活動や休息を支援する技術を学び、実践できる				
授業計画					
単元名	授業内容			時間	方法
1. 人間関係を成立、発展させる技術 (コミュニケーション技術) (皆元先生)	1) 地域で生活する人との対人関係の振り返り プロセスレコードとは ＊演習：地域・在宅看護論実習で関わった地域の人とのコミュニケーション場面を記載し、その内容からコミュニケーションについて学ぶ 会話の一場面をプロセスレコードで振り返る ～会話の中からの「気になること」について考える～ 2) 看護におけるコミュニケーション ＊看護におけるコミュニケーションの意義 ～今までの日常と看護におけるコミュニケーションの違いについて考える～ 3) コミュニケーションの基本 ①コミュニケーション構造とプロセス ・コミュニケーション技術 ②コミュニケーション技法 ・看護場面での効果的なコミュニケーション ③コミュニケーションに障害がある人々への対応			6 時間	講義 演習 プロセスレコード 書き込み グループワーク 発表
2. 感染予防を推進させる技術 (井上先生)	1) 感染予防の意義 ＊自分が行っている感染対策と医療現場での感染防止対策 2) 感染防止対策の基本 ①標準予防策(スタンダードプリコーション) ②感染経路別防止策 ③洗浄・消毒・滅菌 3) 無菌操作			4 時間	講義 グループワーク 発表 演習

	4) ガウンテクニック *実験実習； 手洗い（スタンダードプリコーションに基づく手洗い） ・モデル手洗いチェッカーＢＬＢを使用して手洗いの確実性を評価する *演習： ・滅菌物の取り扱い ・ガウンテクニック（必要な防護用具の選択・着脱） ・使用した器具の感染防止の取り扱い ・感染性廃棄物の取り扱い ・無菌操作	2 時間 4 時間	
3. 安全を守る技術 （皆元先生）	3. 安全を守る技術 ①医療安全の意義 ②主な医療事故とその予防策（患者誤認防止） 演習；緊急時の応援要請 患者誤認の防止策の実施	2 時間	講義 インシデントレポート作成 グループワーク 発表
4、効果的で安楽な動きを作り出す技術 （朝倉先生）	①体位 ②安楽な体位 ③ボディメカニクス 演習 様々な体位 安楽な体位の調整 ボディメカニクス	2 時間	講義
5、活動・運動を支援する技術 （朝倉先生）	①体位変換 ②移乗 ③移動 演習 車いすでの移送 歩行・移動介助 移乗介助 体位変換・保持 ストレッチャー移送	2 時間 2 時間	
6、休息・睡眠を促す技術 （皆元先生）	①安眠を促す援助 演習 安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア 精神的安寧を保つケア	2 時間	

4. 看護技術について考える (皆元先生)	1) 看護技術が意味するもの 2) 看護技術とは何か 3) 看護実践の構成要素 4) これから学んでいく看護技術について 看護技術の考え方 試験 (筆記試験) (実技試験)	2 時間 2 時間	
評価方法及び 評価基準	筆記試験 実技試験 100 点 (井上先生 : 30 点 皆元先生 : 40 点 朝倉先生 : 30 点) 筆記試験 90% 実技試験 10% 実技試験は、『体位変換』を実施する (詳細は『看護技術習得のためのチェック表』を参照) *筆記試験及び実技試験をすべて受験しなければ単位認定は認められない 筆記試験、実技試験それぞれに 60 点未満の場合は、再試験対象となる 筆記試験・実技試験ともに受験を必須とする *筆記試験、実技試験いずれも受験しなければ、基礎看護学技術Ⅰの点数は認められない *授業参加態度や提出レポートなども含めて総合的に評価を行う 実技試験前に練習をすることを受験条件とします。 *技術習得のための技術練習と実技試験内容については、別冊『看護技術習得のためのチェック表』を参照して計画的に練習すること		
テキスト	ナーシンググラフィカ基礎看護学③基礎看護技術 (メディカ出版) 看護技術プラクティス 第 3 版 (学研)		
参考文献	*各講義で提示する		

授業科目	基礎看護技術Ⅱ (ヘルスアセスメント)	講師名	伊藤 哉女		専門領域 看護師：(病院にて看護師として勤務)
			江田 万里子		実務経験年数：17 年
	開講年次：1 年前期	単位	時間数		
1 単位		30 時間（試験含）			
ねらい	看護の判断力を使うためにも最も重要なフィジカルアセスメント・ヘルスアセスメントを学ぶ。 視診・聴診・打診・触診を使って、対象の心身の状態を判断するための技術を学ぶ。 1. ケアをするための前提として必要になるヘルスアセスメントを学ぶ。				
授業計画					
单元名	授業内容			時間	方法
1. 状態判断をするための技術 (伊藤先生)	フィジカルイグザミネーション・フィジカルアセスメントとは ヘルスアセスメントとは 1) 生命徴候の観察 【体温】 ①体温測定の部位は ②測定部位が決まっているのは ③腋窩検温の測定部位は 【呼吸】 ①呼吸器の構造 ・呼吸器の構造 ・体表から見た肺・気管支の位置 ②呼吸状態の観察方法とその根拠 ・呼吸運動を診る ・患者に気づかれないように診る ・呼吸音を聴く ・呼吸の観察をすべきタイミング 【脈拍】 ①脈拍測定 ・脈拍の成り立ち・・・脈拍と心拍の関係 ②脈拍が触知できる部位と触知のコツ ・ワンアクションで触知するために ・3本の指をそろえて触知するワケ 発展学習 脈拍の左右差が教えてくれること 【血圧】 ①血圧の成り立ち ・血圧と心拍出量や末梢血管抵抗との関係 ・血圧測定の方法と測定部位 ②正確に測定する技術とその解剖学的根拠 ・マンシエットを巻く位置とサイズ			8 時間	講義 演習

2. ヘルスアセスメント (江田先生)	・聴診器を当てる部位 発展学習 触診法と聴診法 演習：バイタルサイン測定 1) 身体を理解とそれに基づく判断力の重要性 2) ヘルスアセスメントとは何か 3) フィジカルアセスメントの展開 4) フィジカルアセスメントテクニック ①視診 ②聴診 ③打診 ④触診 5) 身体測定 演習；身体測定 身長・体重・胸囲・腹囲 6) 一般状態とバイタルサイン 7) バイタルサイン測定の意味 8) 系統別アセスメント ①アセスメントの視点を身に付ける ②皮膚・爪・髪のアセスメント ③リンパ系のアセスメント ④頭部・顔面・頸部のアセスメント ⑤鼻・耳・口腔/咽頭のアセスメント ⑥目（視覚）のアセスメント ⑦肺（呼吸器系）のアセスメント ⑧心臓・血管系のアセスメント ⑨乳房・腋窩のアセスメント ⑩腹部（消化器系）のアセスメント ⑪生殖器（女性/男性）と肛門のアセスメント ⑫筋・骨格系のアセスメント ⑬神経系のアセスメント 演習；フィジカルアセスメント	18 時間	講義 演習
3. 試験	筆記試験 実技試験	2 時間 2 時間	
評価方法及び 評価基準	筆記試験 実技試験 100 点 (伊藤先生：30 点 江田先生：70 点) 筆記試験 90% 実技試験 10% 実技試験は、『バイタルサイン測定』を実施する *筆記試験及び実技試験をすべて受験しなければ単位認定は認められない 筆記試験、実技試験それぞれに 60 点未満の場合は、再試験対象となる 筆記試験・実技試験ともに受験を必須とする *筆記試験、実技試験いずれも受験しなければ、基礎看護学技術Ⅰの点数は認められない *授業参加態度や提出レポートなども含めて総合的に評価を行う		

	実技試験前に練習をすることを受験条件とします。 ＊技術習得のための技術練習と実技試験内容については、別冊『看護技術習得のためのチェック表』を参照して計画的に練習すること
テキスト	ナーシンググラフィカ基礎看護学②ヘルスアセスメント（メディカ出版） ナーシンググラフィカ基礎看護学③基礎看護技術（メディカ出版） 看護技術プラクティス 第3版 （学研）
参考文献	人体の構造からわかる看護技術のエッセンス（医歯薬出版株式会社） 根拠から学ぶ基礎看護技術（サイオ出版） ＊各講義で提示する

授業科目	日常生活援助技術Ⅰ	講師名	佐々木 京子		専門領域：看護師・社会福祉士（病院にて看護師として勤務）
					実務経験 年数 年
			中野 弘貴		専門領域：看護師（病院にて看護師として勤務）
					実務経験 年数 年
	開講年次：1 年前期	単位	時間数		
		1	30 時間（試験含）		
授業科目 目標	1. 健康生活の維持や疾病回復の過程を「生活する視点」から諸科学をつなげて援助をとらえることができる 2. 看護の対象の生活過程を整えるため、その援助方法を習得する。 ①環境が人に与える影響を理解し、快適な環境を作るための技術を学び実践する ②身体の清潔を援助する技術を学び、実践できる				
ねらい	健康生活の維持や疾病回復の過程を「生活する視点」から諸科学をつなげて援助を捉える、看護の対象の生活過程を整えるため、その援助方法を習得することをねらいとする。 看護は、健康であれば本来人が自分で営むことができる生活に関わる。看護の対象となる人が、どのような状況であっても可能な限り自分らしく生活ができるように側面から手や心をさしのべることが看護師に求められる。 この科目では、日常生活援助技術について根拠に基づいて理解した上での技術の習得を目指す事を目的とし以下に学習視点を示す。 1. 対象者にあった援助を安全・安楽・自立・個別性の視点で適切に実践するために必要な基礎的な知識と看護技術を習得する。 2. 生活過程を整えるために対象のニーズを身体的・心理的・社会的側面からアセスメントする方法を学ぶ。				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
I. 快適な環境をつくる技術 (中野先生)	1、快適な環境を作る技術 ①環境の意義 ②環境のアセスメント ③環境を整える技術 ・ 病床を整える（ベッドメイキング・シーツ交換） 演習 快適な病床環境の整備 臥床患者のリネン交換			8 時間	講義 演習
2、身体の清潔を援助する技術 (佐々木先生)	1、清潔の意義 2、皮膚・粘膜の生理的メカニズムとケア 3、清潔のニーズのアセスメント 4、清潔の援助方法 対象の状態に合わせた清潔援助の実際 演習：清潔援助技術演習 口腔ケア 手浴、足浴 洗髪 全身清拭、陰部洗浄			20 時間	講義 演習

3. 衣生活援助技術	整容 入浴・シャワー浴 1、衣服の意義 2、患者にとっての病衣とは 3、快適な衣生活の援助 演習 寝衣交換（ドレーンや点滴がない患者の寝衣交換）		
4. 試験	筆記試験 実技試験	2 時間	
評価方法及び 評価基準	筆記試験 実技試験 100 点（佐々木先生 70 点 中野先生 30 点） 筆記試験 90% 実技試験 10% 実技試験は、『部分清拭』を実施する *筆記試験及び実技試験をすべて受験しなければ単位認定は認められない 筆記試験、実技試験それぞれに 60 点未満の場合は、再試験対象となる 筆記試験・実技試験ともに受験を必須とする *筆記試験、実技試験いずれも受験しなければ、日常生活援助技術 I の点数は認められない *授業参加態度や提出レポートなども含めて総合的に評価を行う 実技試験前に練習をすることを受験条件とします。 *技術習得のための技術練習と実技試験内容については、別冊『看護技術習得のためのチェック表』を参照して計画的に練習すること		
テキスト	ナーシンググラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 メディカ出版 看護技術プラクティス 第 3 版 （学研）		
参考文献	*各講義で提示する		

*専門分野

令和6年度(2024年)

授業科目	日常生活援助技術Ⅱ	講師名	林 利奈		専門領域 看護師：(病院にて看護師として勤務)
					実務経験年数： 年
			櫛下町 さおり		専門領域 看護師：(病院にて看護師として勤務)
					実務経験年数： 年
			朝倉 美弥香	専門領域 看護師：(病院にて看護師として勤務)	実務経験年数： 年
開講年次：1 年前期・後期		単位	時間数		
		1 単位	30 時間（試験含）		
授業科目目標	①食事、栄養摂取を安全に行うための技術を学び実践できる ②排泄援助を受ける対象の心情を理解し、安全安楽な排泄援助を学び実践できる				
ねらい	健康生活の維持や疾病回復の過程を「生活する視点」から諸科学を結びつける形で援助を捉え、看護の対象の生活過程を整えるため、その援助方法を習得することをねらいとする。 看護は、健康であれば本来人が自分で営むことができる生活に関わる。看護の対象となる人が、どのような状況であっても可能な限り自分らしく生活ができるように側面から手や心をさしのべることが看護師に求められる。 この科目では、日常生活援助技術について根拠に基づいて理解した上での技術の習得を目指す事を目的とし以下に学習視点を示す。 1. 対象者にあった援助を安全・安楽・自立・個性の視点で適切に実践するために必要な基礎的な知識と看護技術を習得する。 2. 生活過程を整えるために対象のニーズを身体的・心理的・社会的側面からアセスメントする方法を学ぶ。				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
1、食事・栄養摂取を促す技術 (櫛下町先生)	1、食事・栄養の意義 2、食事に関する生理学的メカニズム 3、食事と栄養に関する基礎知識			6 時間	講義 演習
(朝倉先生)	4、栄養状態のアセスメント 5、食事・栄養に関する援助の実際 演習：食事援助（誤嚥防止の体位・援助方法・環境調整） ・嚥下障害がない患者の食事介助 ・嚥下障害がある患者の食事介助 非経口的栄養法（経管栄養法：経腸栄養法・中心静脈栄養法） ・経鼻胃チューブの挿入 ・流動食の注入 ◆日常生活上の医療安全（医療ミスを起こしやすい場面とその対処法） ・誤嚥			8 時間	
2、排泄を促す技術 (林先生)	1、排尿・排便の意義 2、排尿・排便の生理的メカニズム 3、排尿・排便のニーズのアセスメント			1 4 時間	講義

3、試験	4、排尿・排便の援助 演習：排泄援助（自然排尿の援助、便器の選択・取り扱い） ・ 自然排泄を促す援助 ・ 排泄援助 （床上・ポータブルトイレ・おむつ；おむつ交換含む） 導尿・膀胱留置カテーテル 摘便 浣腸 筆記試験	2 時間	演習
評価方法及び評価基準	筆記試験 100 点（櫛下町先生：20 点 朝倉先生：30 点 林先生：50 点） *筆記試験及び実技試験をすべて受験しなければ単位認定は認められない ＊授業参加態度や提出レポートなども含めて総合的に評価を行う 実技試験前に練習をすることを受験条件とします。 ＊技術習得のための技術練習については、別冊『看護技術習得のためのチェック表』を参照して計画的に練習すること		
テキスト	ナーシンググラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 メディカ出版 看護技術プラクティス 第3版 (学研)		
参考文献	*各講義で提示する		

令和6年度(2024年)

専門領域：看護師（病院にて看護師として勤務）
実務経験 年数 20 年

4, 皮膚・創傷を管理する技術	1, 皮膚・創傷を管理するための基礎知識 2, 創傷の分類と治癒過程 3, 褥瘡の管理 4, 創傷の管理 演習： 包帯法 褥瘡予防ケア	4 時間	講義 演習
5, 救急救命を行う技術	緊急時における迅速な処置の必要性 救急時における看護者の役割 緊急時の応援要請 一次救命処置 ファーストエイド（止血法） 感染予防 演習 緊急時の応援要請 一次救命処置 ファーストエイド（止血法）	2 時間	講義 演習
6. 評価	筆記試験（60分） 100点	2 時間	
評価方法及び 評価基準	筆記試験 100 点 *筆記試験及び実技試験をすべて受験しなければ単位認定は認められない *授業参加態度や提出レポートなども含めて総合的に評価を行う 実技試験前に練習をすることを受験条件とします。 *技術習得のための技術練習については、別冊『看護技術習得のためのチェック表』を参照して計画的に練習すること		
テキスト	ナーシンググラフィカ 基礎看護学③基礎看護技術 メディカ出版 看護技術プラクティス第3版（学研） ケアに生かす検査値ガイド（照林社）		
参考文献	講義で提示する		

令和6年度(2024年)

授業科目	診療に伴う技術Ⅱ	講師名	江田 万里子		専門領域 : 看護師 病院にて 看護師として勤務)
					実務経験 年数 年
	開講年次 : 1 年次後期	単位	時間数		
		1	30 時間 (試験含)		
授業科目 目標	①与薬を正しく行うために必要な知識を理解し、正確な手技で実施できる ②輸血の種類、保管、取り扱い、副作用等理解し、正しい手技で実施できる ③死者の尊厳を保つことができるようなエンゼルケアを実施できる				
ねらい	診療、検査・治療処置をうける対象への援助及び診療補助技術が身体に及ぼす影響を理解し、 患者への安全な看護技術の援助方法を身につけることをねらいとする。				

	授業計画
--	------

単元名	教育内容	時間	方法
1, 与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術	1, 与薬とは 2, 与薬における法的根拠 3, 与薬のための基礎知識 4, 与薬のための援助技術 経口的与薬法・口腔内与薬法・直腸内与薬法・点眼法・点鼻法・点耳法・吸入法・塗布法・貼付法・注射法 演習；点眼法・経口与薬法・塗布法・貼付法・点鼻法・座薬（経口薬、経皮・外用薬の投与、座薬） 5, 注射のための援助技術 皮下注射・筋肉注射・静脈内注射・点滴静脈内注射 演習；採血法（静脈血採血法） 皮下注射・筋肉注射・静脈内注射 点滴静脈内注射（ルートの管理含む） 点滴静脈内注射の管理 6, 輸血のための援助技術 輸血の種類 各輸血の管理方法 演習；輸血施行時の留意点 7, 与薬における安全管理 演習；薬剤等の管理（毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤・抗悪性腫瘍薬） ◆与薬における医療安全；起こしやすいミスとその対策 演習 針刺し・針刺し事故の防止、事故後の対応 誤薬 皮膚障害	1 4 時間 6 時間 2 時間	講義 演習

2, 危篤・終末期における技術	1, 臨終前の身体的変化とケア 2, 臨終後の身体的変化 3, 死後のケア	4 時間	講義 演習
3、試験	筆記試験（60分） 実技試験 *実技試験については事前にオリエンテーションを実施	2 時間 2 時間	
評価方法及び 評価基準	筆記試験 実技試験 100 点 筆記試験 90% 実技試験 10% 実技試験は、『点滴静脈注射の滴下調整』を実施する *筆記試験及び実技試験をすべて受験しなければ単位認定は認められない 筆記試験、実技試験それぞれに 60 点未満の場合は、再試験対象となる 筆記試験・実技試験ともに受験を必須とする *筆記試験、実技試験いずれも受験しなければ、日常生活援助技術Ⅰの点数は認められない *授業参加態度や提出レポートなども含めて総合的に評価を行う 実技試験前に練習をすることを受験条件とします。 *技術習得のための技術練習と実技試験内容については、別冊『看護技術習得のためのチェック表』を参照して計画的に練習すること		
テキスト	ナーシンググラフィカ 基礎看護学③基礎看護技術 メディカ出版 看護技術プラクティス第3版（学研） ケアに生かす検査値ガイド（照林社）		
参考文献	講義で提示する		

専門分野

令和6年度(2024年)

授業科目	看護研究の基礎	講師名	馬場 若美		専門領域 : 看護師（病院にて 看護師として勤務）
					実務経験 年数 年
	開講年次：1 年次	単位	時間数		
1		15			
授業科目 目標	1. 看護における研究の意義・役割を理解する。 2. 文献検索の重要性と活用の仕方について理解する 3. 看護研究の方法についての基本的な知識を習得する。				
ねらい	日本看護協会「看護者の倫理綱領」の中に、『看護者は研究や実践を通して、専門的知識・技術の創造と開発に努め、看護学の発展に寄与する』『看護者は、より質の高い看護を行うために、看護実践・看護管理・看護教育・看護研究の望ましい基準を設定し、実践する』と述べられている。 看護職は専門職であるために自律的に自己の看護の質を上げる努力をし続ける必要があります。そのためには、看護研究を積み重ね、その看護に根拠を持たせることが必要である。 今回は、看護研究を行うために必要な基本的な知識を学習することで、看護研究とは何かを理解し実習のまとめやレポート作成の作成時に研究のルールを守り学術的なまとめが行えるようになるための基礎を学ぶ。最終的に3年生後半の看護学概論Ⅱへつなげることをねらいとする。				
授業計画					
回数	単元名	学習内容			方法
1 (2時間)	看護研究の特徴と展開	授業のねらい なぜ看護研究をするのか 研究の種類と特徴の理解 質的研究、量的研究とはなにかを理解できる ＊3年間研究的視点でまとめを行うための基礎を培う			講義
2 3 (4時間)	文献検索の基礎知識	文献検索の意義と方法 文献検索の重要性 文献の整理 文献の読み方 検索方法 ➤ 文献検索の演習			講義 演習
4 (2時間)	看護研究における倫理	研究における倫理原則 倫理的配慮が求められてきた歴史的背景 研究において擁護されるべき権利			
5 6 7 (6時間)	レポート作成の基本	レポートを書く意義 レポートの基本構成 レポートの書き方 ・引用文献の書き方			講義・演習
	事例のまとめ方	事例をまとめる際のルール(ケーススタディ) 資料作成時のルール			
8(2時間)	試験	筆記試験			
評価方法					
筆記試験:100点(レポートや講義参加態度も評価対象とする)					
テキスト 看護研究 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学 ④MCメディカ出版					
参考文献 講義で提示する					

授業科目	地域・在宅看護概論Ⅰ	講師名	佐々木 京子		専門領域：看護師・社会福祉士 (病院にて看護師として勤務)
	開講年次：1 年次		単位	時間数	
			1	15	
ねらい	1. 地域・在宅看護論実習Ⅰを通して、地域で生活する人々の暮らしを経験的に知る。 2. 地域の人々とかかわることにより良いコミュニケーションについて考える。 3. 人が生活する、暮らすということについて理解する 4. 地域・在宅看護を取り巻く社会の現状や時代背景及び歴史的変遷を学び、在宅看護の意義や目的を理解する 5. 在宅看護における倫理について理解する				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
1. 地域社会の理解	1) 地域・在宅看護論実習Ⅰを通して、地域で生活する人々の暮らしを経験的に知る。 ①地域で生活する人々の暮らしについて学ぶ ②生活の理解 ③生活者の理解 ④まとめ・発表			1 2	実習 グループワーク
2. 在宅療養者の権利保障 評価・まとめ	2) 地域・在宅看護を取り巻く社会の現状や時代背景 ①我が国の人口の動向と政策、今後の流れ			6	グループワーク発表 講義
	3) 在宅看護の目的と意義 ①地域・在宅看護の内容			8	
	4) 地域・在宅看護における倫理 ①人権の尊重と権利性 ②期待される在宅看護と倫理性 ③社会機能としての看護の責務			2	
	試験			2	
<備考>					
評価方法及び 評価基準	筆記試験90点 レポート10点 レポート：テーマ「地域で暮らしていくこと」 ※試験とレポートを両方受けなければ評価できない				
テキスト	長谷川翔：地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア				
参考文献	長谷川翔：地域・在宅看護概論②在宅医療を支える技術 河原加代子：系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 杉本正子：在宅看護論実践をことばに 木下由美子：新版在宅看護論				

授業科目	精神看護学概論	講師名	皆元 謙治		専門領域 看護師：(病院にて看護師として勤務)
					実務経験年数：15 年
			田中 みとみ		専門領域 看護師：(病院にて看護師として勤務)
					実務経験年数：51 年
			小山 宏子		専門領域：精神保健福祉士（保健所にて精神保健福祉士として勤務）
					実務経験 年数 7 年
					精神科ソーシャルワーカー（福岡県精神保健福祉センター勤務）
		実務経験 年数 26 年			
開講年次：1 年次後期		単位	時間数		
		1 単位	30 時間（試験含）		
授 業 科 目 目 標	1、人間のこころのはたらきと発達、発達課題、現代におけるこころの問題を学ぶ。 2、精神保健医療を取り巻く社会情勢と法制度、施策、および精神を病む人への権利を理解し精神看護の役割を学ぶ。 3、精神科医療における倫理的課題を明らかにする。				
ねらい	精神保健の基本と保持増進に向けた看護について理解することができる。				
授業計画					
単元名		教育内容		時間	方法
1 章：精神保健とは (皆元先生)		1 精神の健康の概念 ① 精神の健康の定義 ② 精神障がいの一次予防・二次予防・三次予防		2 4	講義
		2 心の機能と発達 ① 精神と情緒の発達 ② 自我の機能 ③ 防衛機制 ④ 精神力動 ⑤ 転移感情		2	
		3 精神の健康に関する普及啓発 ① 偏見、差別、スティグマ ② 精神保健医療福祉の改革ビジョン		2	
2 章:生活の場と臨床におけるクライシス (皆元先生)		4 危機＜クライシス＞ ① 危機＜クライシス＞の概念 ② 危機＜クライシス＞の予防 ③ 危機介入 ④ ストレスと対処 ⑤ 適応理論		2	
		5 災害時の地域における精神保健医療活動 ① 災害時の精神保健医療活動 ② 災害時の精神保健に関する初期対応 ③ 災害時の精神障がい者への治療継続		4	

3章：精神保健医療福祉の変遷と法や施策 (小山先生) 4章：精神看護の倫理と人権擁護 (小山先生) 5章：安全な治療環境の促進 (田中先生) ストレスマネジメントと精神科看護師の役割 (田中先生) 終講試験	6 精神の健康とマネジメント ① 心身相関と健康 ② 身体疾患がある者の精神の健康 ③ 精神疾患がある者の身体の健康 ④ 患者と家族の精神の健康 ⑤ 保健医療福祉に従事する者の精神の健康 ⑥ 心身相関の考え方に基づくホリスティックケア ⑦ リエゾン精神看護 ⑧ 患者、家族、保健医療福祉の専門職種間の連携促進 7 精神保健医療福祉の変遷と看護 ① 諸外国における精神医療の変遷 ② 日本における精神医療の変遷 ③ 精神保健医療福祉における看護師の役割 8 精神保健及び精神障がい者に関する法律<精神保健福祉法>の運用 ① 精神保健及び精神障がい者福祉に関する法律 <精神保健福祉法>の基本的な考え方 ② 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 <精神保健福祉法>による入院の形態 ③ 精神保健指定医 9 患者の権利擁護<アドボカシー> ① 当事者の自己決定の尊重 ② 入院患者の基本的な処遇 ③ 精神医療審査会 ④ 隔離、身体拘束 10 安全管理<セーフティマネジメント> ① 病棟環境の整備と行動制限 ② 自殺、自殺企図、自傷行為 ③ 攻撃的行動、暴力、暴力予防プログラム ④ 災害時の精神科病棟の安全の確保 11 看護師のストレスマネジメント 精神看護に関わる資格 12 まとめ 筆記試験	4 2 2 2 2	
評価方法及び評価基準	筆記試験 100 点 (皆元先生 70 点 小山先生：20 点 田中先生 10 点) 試験時間は 60 分 GPA 制度 成績評価は 100 点満点とし、GPA (成績平均値) を出す。		
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 精神看護学①情緒発達と精神看護の基本		
参考文献			
備考			

専門分野

令和6年度(2024年)

授業科目		成人看護学概論	講師名	伊藤 哉女		専門領域：看護師（病院にて看護師として勤務）	
						実務経験年数 17 年	
		開講年次：1 年次後期			単位	時間数	
1	30 時間（試験含）						
授業科目 目標		1、 成人としての身体的、精神的、社会的、また学習上の特徴を理解し生活や健康に及ぼす影響を理解する 2、 成人期の健康障害について理解する 3、 成人期の対象への看護で必要な理論を理解し、対象に活用できる 4、 成人期における対象を看護するための看護における臨床判断力を養う 5、 成人期の対象を看護する際の倫理的課題を明らかにする					
ねらい		生活している成人としての成長発達の特徴や役割、それに伴う特有の健康問題について理論を用いて説明できる					
授業計画							
単元名		教育内容				時間	方法
1 2	I．成人期にある人の理解	1．「成人看護学」分野で用いられている成人の特徴の概要 2．成人各期の特徴 （1）青年期 （2）壮年期 （3）向老期 3．各期の健康問題 4．インタビュー演習のオリエンテーション及び計画立案				4	講義
3 4 5	成人者へインタビュー体験	1．インタビュー体験 を使って成人期の特徴を整理する 2．体験後の授業で、学びの整理・共有会 視点：インタビュー体験から、成人期の発達課題の特徴や生活習慣と健康障害との関連を考察していく				6	演習
6 7 8	II．成人の生活と健康	1．成人の生活の理解 2．健康観の多様性と看護 演習：国民衛生の動向で示されるデータから健康障害の特徴と動向の理解				6	講義 演習
9 10 11	III．成人期にみられる健康障害	1．生活習慣に関連する健康障害 2．ワークライフバランスと健康障害 3．更年期にみられる健康障害 演習：インタビューした事例を使って健康障害の要因（予測される健康障害）を分析、発表 視点：体験を通じて、成人期にある方がどのような健康の課題を抱え生活しているのかを知り、そこに必要な看護における臨床判断を考える				6	講義 演習
12 13	IV．成人者への看護アプローチ	1．成人の学びの特徴（アンドラゴジーモデル） 2．健康障害と学習方法の関係 3．成人期の対象を看護する際の倫理的課題 4．看護の実際 事例：エンパワメントアプローチ 4 5 歳男性 食事療法の学習会参加 ヘルスプロモーションと看護 5 0 歳男性 健康教育				4	講義

14	V. 経過別看護の視点	1. 経過別看護の特性 2. 健康レベルの変化特性とその看護 事例：52歳 男性 胃がんで手術を受ける患者の経過	2	講義
15		1. 筆記試験（60分）・授業評価アンケート	2	
評価方法及び評価基準		筆記試験 100点 筆記試験、その他講師が提示した課題を提出しなければ単位は認めない		
テキスト		ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論		
参考文献		国民衛生の動向、公衆衛生マニュアル 松木秀明、よくわかる専門基礎講座 公衆衛生、金原出版株式会社 よくわかる発達心理学 第2版、ミネルヴァ書房 佐藤栄子、事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論入門 第2版、日総研 竹尾恵子、事例で学ぶ看護理論、学研		
備考		授業時間前には事前に配布したワークシートを自己学習しておく。授業中に追加記入し、授業後は復習することで、学んでいきます。授業は反転学習を基本として行います。事前課題に取り組み、主体的な授業姿勢を期待します。		

授業科目	母性看護学概論	講師名	豊田 晴子		専門領域 助産師・看護師（病院で 助産師・看護師として勤務	
					実務経験年数：25 年	
			竹若 瑞子		専門領域 （病院で 勤務として	
	開講年次：1 年次前期		単位	時間数		
		1 単位	30 時間（試験含）			
ねらい	1、母性看護の対象を理解し、母性看護の意義を学ぶ。 2、母性を取り巻く社会情勢と法制度、施策、母子保健の動向を理解し母性看護の役割を学ぶ。 3、各年齢層における身体的、精神的、社会的変化を理解する。 4、母性における倫理的課題を明らかにする。					
授業計画						
単元名		教育内容			時間	方法
A. 母性看護の基盤となる概念 (豊田先生)		母性とはなにかを幅広く考え、母性をめぐる様々な定義を理解し、母性看護学における母性のとらえ方について理解を深める。 1) 母性とは 2) 母子関係と家族発達 3) セクシュアリティ(人間の性) 4) 母性看護を支える概念 ①ヘルスプロモーション②ウェルネス③エンパワメント 5) 母性看護のあり方 G. 母性看護における倫理 H. 母性看護における安全・事故予防			6	講義
B. リプロダクティブヘルスに関する概念 (豊田先生)		1)リプロダクティブヘルスとは 2)リプロダクティブヘルスについての動向 3)リプロダクティブヘルスに関する法律、施策と支援 ①子供と女性の保護に関する法律 ②女性の就労に関する法律 ③子育て支援に関する制度、施策 ④暴力、虐待の防止に関する法律と施策 ⑤周産期医療システム (2 年時教科外で周産期医療センター；聖マリア病院見学)			8	講義
C. 生殖に関する生理 (竹若先生)		女性のライフサイクルにおける形態・機能・特性の変化について理解する。 1) 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 2) 女性のライフサイクルと家族 3) 男性の生殖器			4	講義
D. 女性のライフステージ各期 における看護 (竹若先生		女性のライフサイクルに与えるホルモン影響について理解する。 1) ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性 2) 思春期の健康と看護 3) 成熟期の健康と看護 4) 更年期の健康と看護 E. 老年期の健康と看護			6	講義 GW

E. 母性における倫理的課題 (竹若先生)	1)リプロダクティブヘルスに関する倫理 母性を取り巻く倫理的課題を明らかにする ①人口妊娠中絶 ②出生前診断 ③生殖補助医療	4	
F. 評価・まとめ(竹若先生)	筆記試験	2	
テキスト	ナーシンググラフィカ 母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護 ナーシンググラフィカ 母性看護学②母性看護の実際 ナーシンググラフィカ 母性看護学③母性看護技術 メディカ出版		
参考文献	国民衛生の動向		
評価方法及び評価基準	筆記試験 100 点(豊田先生 50 点 竹若先生 50 点)		

専門分野

令和6年度(2024年)

専門分野	授業科目	小児看護学概論	講師名	馬場 若美	専門領域	実務経験年数
					看護師：病院にて看護師として勤務	
					単位	時間数
	開講年次：1 年次後期		1	30 時間（試験含）		
授業科目	目標	1. 小児看護の特徴、小児各期の生活と環境について理解し、健康な小児の日常生活の保持・増進さらに小児看護目的、役割、機能について学ぶ。 2. 健康障害が小児と家族に与える影響を理解し予防、健康の回復及びよりよい成長・発達への看護支援を学ぶ。				
ねらい	1. 小児看護の特徴、健康な小児の日常生活の保持・増進、小児看護の目的、役割、機能について学ぶ。 2. 小児を取り巻く社会情勢を理解し、法制度、施策及び子どもの権利について学ぶ。 3. 健康な小児の成長発達を学ぶ。 4. 子どもと家族を看護する際の倫理的課題を明らかにする。					
授業計画						
単元名	教育内容				時間	方法
I 小児看護学で用いられる概念と理論	1 小児看護とは	看護の倫理綱領とキューブラロスの五段階反応 ①小児看護の対象と目的について述べることができる ②子どもの権利を尊重した看護について理解できる ③小児看護における家族の位置づけについて理解できる ④エビデンスに基づく小児看護の実践に関する課題について理解できる			① 2 時間	講義
	2 小児看護の歴史と意義	①小児医療と小児看護の変遷を理解することができる ②子ども感を社会的状況、育児環境変化から述べることができる ③現代の小児医療の課題、今後のあり方を述べることができる ④現代の子どもを取り巻く社会環境（母子保健指標も含む）が理解できる			② 2 時間	講義
	3 子どもの権利と看護	①子どもの権利を尊重した看護について理解できる ②子どもの権利条約の意義と特徴について理解することができる ③小児看護を実践する中で留意する子どもの権利を理解することができる ④現代社会と小児医療における子どもの権利に関する課題について理解することができる			③ 2 時間	講義 演習
	4 小児看護と法律・施策	①子どもと親を支援するための法律・施策について理解できる ・子どもを取り巻く社会環境 ・子どもに関する法律			④ 2 時間	講義
	5 小児看護で用いられ	①小児看護で用いられる各理論を理解することができる ・セルフケア理論 ・エリクソンの自我発達理論 ・ピアジェの認知			⑤ 2 時間	講義

	る理論	発達理論・親子関係論・家族理論		
Ⅱ 子どもの成長・発達と看護	1. 成長・発達の原則	①成長・発達の一般的原則 ②子供の成長・発達に影響する要因	⑥ 2 時間	講義 DVD GW
	2. 乳児期の子ども の成長・発達 と看護	1. 乳児期とは ②乳児の形態的成長・発達の特徴 ③乳児の機能的発達の特徴 ④乳児の心理・社会的発達 ⑤乳児期に見られる健康問題 ⑥乳児のセルフケアの発達と看護		
	3. 幼児期 の子ども の成長・発達 と看護	1. 幼児期とは ①幼児期の子ども の形態的成長・発達の特徴 ②幼児期の子ども の機能的発達の特徴 ③幼児期の子ども の心理・社会的発達 ④遊びの定義と遊びの意義 2. 幼児期の子ども のセルフケアの発達と看護 ①・幼児期の子ども の食事に関する問題 ・幼児期の子ども の食に 関したセルフケアと看護 ③・幼児の子ども の排泄に関する問題 ・幼児期の子ども の排泄に 関したセルフケアと看護 ⑤幼児期の睡眠に 関したセルフケアと看護 ⑥幼児期の清潔に 関連したセルフケアと看護 ⑧幼児に生じやすい事故の特性と、家族を含めた事故防止や安全教育 3. 幼児期の子ども にみられる健康問題 ・予防接種の種類と留意点 ・幼児期の子ども にみられる健康問題（事故・感染） ・乳幼児の死亡原因 4. 幼児期の子ども のいる家族への看護 ・幼児期の子ども を持つ家族の持つ課題	⑦⑧ 180 分	講義 DVD GW
	4. 学童期 の子ども の成長・発達 と看護	1. 学童期とは ①学童期の発達課題 ②身体的特徴と栄養 ③機能的特徴 ④学童期にみられる健康問題 ⑤学童期の子ども のセルフケアの発達と看護 ⑥学童期の子ども の家族への看護 2. 学校保健法について	⑨ 2 時間	講義 GW

	5. 思 春 期 の人々の成 長・発達と 看護	1. 思春期とは ①思春期とは ②思春期の発達課題 ③思春期の身体的特徴 ④第二次性徴 ⑤機能的発達 2. 思春期の人々によくみられる健康問題 ①生活と健康問題 ②いじめ、不登校 ③性意識への変化 ④自殺 3. 思春期の人々のセルフケアの発達と看護 ①思春期の人々を取り巻く環境の特徴とセルフケア行動 ②思春期の親子関係	⑩ 2 時間	講義 GW
	6. 発 育 の 評価	1. 形態的成長の観察と評価 ①乳幼児身体発育値 ・パーセントイル曲線 ②指数による評価方法 2. 心理社会的発達の評価法 ①デンバー発達判定法 ②遠城寺式・乳幼児分析的発達検査表	⑪ 2 時間	講義 演習 GW
Ⅲ 健康障害 をもつ子ども・家族へ の看護	7. 外来に おける子どもと家族の 看護	①外来看護の役割 ②小児外来の環境調整 ③外来における子どもと家族への援助 ④小児外来看護の課題	⑫ 2 時間	講義 GW
	8. 災 害 を 受けた子どもと家族への 看護	①災害・災害看護とは ②災害を受けた子どもの心と身体への影響 ③災害時の子どもと家族への看護 ・支援を必要とする子どもと家族 ・特に支援を必要とする子どもと家族への看護	⑬ 2 時間	講義 GW
	9. 被虐待 児と家族への 看護	①児童虐待の定義と内容 ②虐待が子どもに与える影響 ③被虐待児および家族への看護 ・子どもへの支援 ・保護者への支援	⑭ 2 時間	講 義 GW

		・関係機関の連携の必要性		
	試験	筆記試験		
評価方法及び評価基準	筆記試験 100 点 筆記試験、その他講師が提示した課題を提出しなければ単位は認めない			
テキスト	ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 メディカ出版			

授業科目	看護的思考の基礎	講師名	堀内 幸代		専門領域
					看護師・保健師（病院にて看護師して勤務）
					実務経験年数
開講年次：1 年次後期	単位	時間数	11 年		
	1	30 時間			
授業科目 目標	1、看護を実践するために考え方の基礎となるクリティカルシンキングについて学び、クリティカルシンキングを使って考えるための使い方を学ぶ。 2、看護におけるものの考え方の基礎となる看護過程について学び、事例を使い実践できる。				
ねらい	看護を実践するにあたり、看護と看護に必要な基礎要素や看護理論を使って、対象やその場の状況を判断し、看護として必要な介入をすることが必要である。また、看護は看護チームやその他の専門職とチームでそこで、看護働くことになる。そこで必要なことは、他者が納得できる論理的な思考と表現となってくる。臨床の場で看護を実践するための基礎的要素や看護理論、その他看護に必要な知識と看護実践の思考過程の関係性を明らかにし、それらを使いながら看護を考え、表現するための基礎を学ぶ。				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	備考
看護師のものの考え方	1、看護師のように考える ・問題解決型アプローチ ・目標志向型アプローチ ・クリティカルシンキング ・メタ認知			4	講義 ワーク
クリティカルシンキング	2、臨床判断と臨床推論			4	
看護過程	3、看護に必要なクリティカルシンキング 1)看護におけるクリティカルシンキングとは 2)クリティカルシンキングを使って思考してみよう 3)大事なのは、看護として思考する時、クリティカルシンキングを企図的に活用することである				
	4、ヘンダーソンの理論による看護過程 1)ヘンダーソン理論から考える人間・看護 （ニード論で考える） 2)看護過程の構成要素 3)事例を使って考えてみよう			20	
	試験			2	
テキスト	講師作成資料 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ヌーベルヒロカワ				
評価方法及び 評価基準	筆記試験 90％ 小テスト 10％				
参考文献	授業で紹介・提示します				

専門分野

令和6年度(2024年)

専門分野

授業科目	医療安全	講師名	田中 芳明		専門領域	
					医師（医学部教員として勤務）	
					実務経験年数:43 年	
			熊添 智春		専門領域	
					看護師（病院にて看護師として勤務）	
	実務経験年数:20 年					
開講年次： 1 年次後期		単位	時間数			
		1	15 時間			

授業科目 目標	1、医療安全を学ぶことの大切さと共に事故発生のメカニズム、事故防止について学ぶ。 2、医療事故を起こした時の対応方法について学ぶ。 3、自らが起こしたヒヤリハット事例を使って、インシデント分析を行い、原因を明らかにできる。		
ねらい	看護を実践する中で最も重要な「安全」の視点から医療安全の取り組みの実践及び医療事故発生のメカニズム、医療事故を未然に防ぐための方法まで系統的に学ぶ。		

授業計画			
単元名	教育内容	時間	備考
医療安全の重要性 (田中先生)	(1) 医療安全の動向 ①我が国の医療安全の変遷 (2) 医療安全に関する基礎知識 (3) 看護職の法的規定と医療安全	2	講義 ワーク
医療事故防止の考え方 (田中先生)	(1) 医療安全への取り組み ①国の医療安全への取り組み ②看護職能団体の医療安全の取り組み (2) 医療事故への対応 ①医療事故発生時の対応 初期対応 中長期的対応	4	
事故発生のメカニズムとリスクマネジメント (熊添先生)	(1) 事故発生のメカニズム ①ヒューマンエラーの視点 ②環境の視点 (2) 事故分析 ①R C A分析	4	
事故防止の考え方 (熊添先生)	(1) チームで取り組む医療安全 ①ヒューマンマシンシステム ②エラープルーフ ③リスクマネジメント ④チームS T E P P S (2) 事故対策	2	
演習 (熊添先生)	(1) 演習 ・インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告 ・患者誤認の防止策の実施 ・安全な療養環境の整備	2	

	試験	1	
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 医療安全		
評価方法及び評価基準	筆記試験 ・ ポスターセッションの評価 合わせて 100 点満点 田中先生：40 点 熊添先生：60 点 *技術習得のための技術練習と実技試験内容については、別冊『看護技術習得のためのチェック表』を参照して計画的に練習すること		
参考文献	医学書院 統合分野 看護の統合と実践 医療安全 ヌーベルヒロカワ 医療安全とリスクマネジメント 他は授業で紹介・提示します		

専門分野		看護学		看護学		
授業科目	看護倫理	講師名	堀内 幸代		専門領域	
					看護師（看護師として勤務）	
	開講年次：1 年次後期	単位	時間数	実務経験年数		
1		30 時間	11 年			
授業科目 目標	1、自らが経験した実習場면을振り返り、そこにある倫理的問題を明らかにする。 2、倫理的問題を考えるための手法として、倫理的問題へのアプローチ法を用いて考える。 3、倫理的ジレンマに気づき、倫理的ジレンマへの向き合い方を学ぶ。					
ねらい	看護倫理の基礎的考え方は看護学概論Ⅰで学び、その後実習を経て自らが経験した場면을倫理的視点で振り返り、そこに含まれる要素を明らかにし、倫理的課題を考えていくことを繰り返し行い倫理的行動を身につけることをねらいとする。					
授業計画						
単元名	教育内容				時間 備考	
看護倫理の基本	1、倫理とは 倫理と法律の違い				6	講義 ワーク
看護倫理のア プ ロ ー チ	2、看護師が倫理を学ぶ意味 ・個々の実践者のための看護倫理 ・看護専門職全体のための看護倫理 3、倫理的問題へのアプローチ法 ①事例検討のための情報収集 ジョンセンの4分割法が説明 ・「医学的適応」「患者の意向」「生活の質」「周囲の状況」の視点で 情報を整理し、話し合う ②ステップモデル ステップ1;全体の状況把握と問題の明確化 ステップ2;整理・分析 ステップ3;行動の選択肢の列挙 ステップ4;とるべき行動の最終確認				6	
倫理カンファ レンス	4、自らが経験した実習場면을振り返り、そこにある倫理的課題を明らかにする。 ポスターセッションで発表				16	
試験					2	
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ基礎看護学① 看護学概論					
評価方法及び 評価基準	筆記試験 ・ ポスターセッションの評価 合わせて 100 点満点 ポスターセッションは、ルーブリック評価とする					
参考文献	倫理 日本看護協会編 看護者の基本的責務：基本法と倫理 2003 日本看護協会 看護研究における倫理指針 2013 2004 他 他は授業で紹介・提示します					

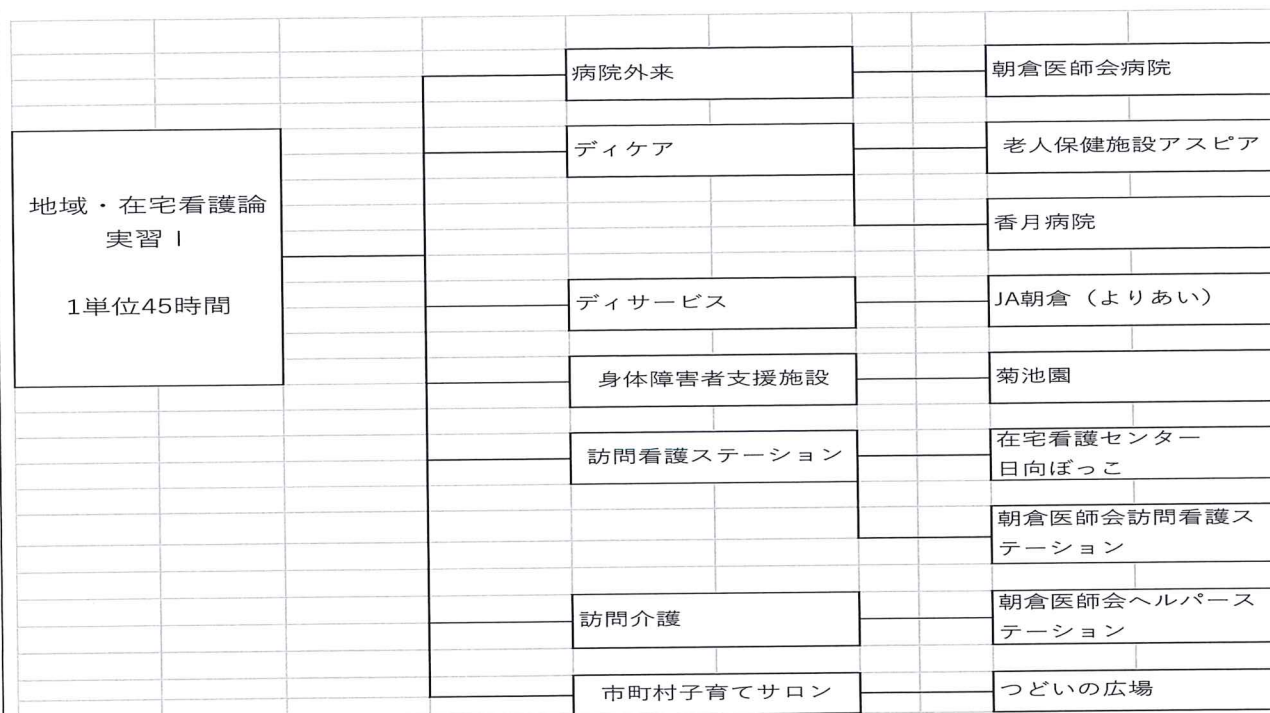
専門分野

実習名	地域・在宅看護論実習 I	実習年次： 1 年次	
		期間	単位(時間数)
		4.5 日間	1 単位 (45 時間)
実習施設	朝倉医師会病院外来 JA 朝倉サービスよりあい 在宅看護センター日向ぼっこ 障害者支援施設 菊池園	朝倉医師会老人保健施設アスピアディケア 香月病院通所リハビリテーションだんらん 朝倉医師会 介護支援センター (訪問看護ステーション・ヘルパーステーション) 朝倉市委託 母子 つどいの広場	
実習目的	地域・在宅看護論実習 I 目的 地域の様々な場所で生活する人々の暮らしを知り、人々が抱えている健康上、生活上の問題を理解し、看護の果たす役割を考える		
目標及び行動目標			
I. 科目目標			
1)在宅で看護を展開するための基盤として、地域で生活する人々の多様性を理解できる			
2)地域で生活する人々の健康状況を知り、健康上、生活上の問題を理解できる			
3)地域で生活する様々な人々とコミュニケーションをとり、よりよいコミュニケーションの在り方について考えることができる			
4)人々が地域で生活することの意味を考えることができる			
5)地域で生活する人々の健康の保持・増進、疾病予防、健康の回復のための支援が行われている理由を考えることができる			
6)基本的な実習態度を身につける			
II. 行動目標			
1) 在宅で看護を展開するための基盤として、地域で生活する人々の多様性を理解できる			
① 生活者が住む地域を理解する			
②地域で生活する施設利用者、入所者の思いを知る			
2) 地域で生活する人々の健康状況を知り、健康上、生活上の問題を理解できる			
①地域で生活する施設利用者、入所者の生活上の満足度・充足度を知る			
3) 地域で生活する様々な人々とコミュニケーションをとり、よりよいコミュニケーションの在り方について考えることができる			
①対象に合わせた話し方で話をすることができる			
②対象の反応を見ることができる			
4) 人々が地域で生活することの意味を考えることができる			
①実習でかかわった入所者、利用者の言動を生活の視点で言語化できる			
②対象者の言動から生活することの意味を考えることができる			
③地域で生活することの意味を考える			
5) 地域で生活する人々の健康の保持・増進、疾病予防、健康の回復のための支援が行われている理由を考えることができる			
①地域で行われている生活者支援の実際を学ぶ			
②地域で生活する人々の支援の理由がわかる			
6) 基本的な実習態度を身につける			
①積極的・主体的に学習できる			
②責任ある行動がとれる			

- ③他者を尊重（思いやる）する事ができる
- ④人の意見を聞き意見交換ができる
- ⑤グループ内で協力できる
- ⑥自己の健康管理ができる
- ⑦ルールを守ることができる

Ⅲ. 実習方法

1) 地域・在宅看護論実習Ⅰ構造図



2) 実習スケジュール

①地域・在宅看護論実習Ⅰ

実習施設名	実習生人数			
JA 朝倉ディサービスよりあい	2 名	2 名	2 名	2 名
在宅看護センター日向ぼっこ	3 名	3 名	3 名	3 名
つどいの広場	3 名	3 名	3 名	3 名
朝倉医師会介護支援センター	5 名	5 名	4 名	4 名
アスピアディケア	5 名	5 名	5 名	5 名
香月病院通所リハビリテーション	5 名	5 名	3 名	3 名
朝倉医師会病院外来	8 名	8 名	10 名	10 名
障害者支援施設菊池園	9 名	9 名	10 名	10 名
	40 名	40 名	40 名	40 名

*4月29日 半日 学内実習

1 単位 45 時間（4.5 日）中 臨地実習 4 日間 学内実習 5 時間（半日）

Ⅳ. 評価方法

実習内容 70 点
 態度評価 30 点 合計 100 点

V. 評価表（別紙参照）

発表に関しては、ループブック評価を参考に評価を行う

専門分野

実習名	基礎看護学実習 I	実習施設	朝倉医師会病院 朝倉健生病院 甘木中央病院	実習年次： 1 年次	
				期間	単位(時間数)
				3 日間	1 単位 (30 時間)
実習目的	1. 病院、病棟の概要を理解し、病院の機能を理解する。多職種の役割や看護の実際を見学し看護師の役割を学ぶ。				
目標及び行動目標					
I. 科目目標					
1) 病院の構造、配置を理解し、病院が持つ役割を知る。					
2) 病院で働く様々な職種を知る。					
3) 病棟の構造、患者の療養環境を理解する					
4) 看護師について、看護業務の実際を経験する					
5) 基本的な実習態度を身につける					
II. 行動目標					
1) 病院の構造、配置を理解し、病院が持つ役割を知る。					
(1) 病院の構造、各部門の位置を知る					
2) 病院で働く様々な職種を知る。					
(1) 各部署の機能と役割を知る					
3) 病棟の構造、患者の療養環境を理解する					
(1) 患者にとって生活しやすい環境について説明できる					
(2) 患者の生活しやすい環境を考えることができる					
4) 看護師について、看護業務の実際を経験する					
(1) 看護師について、看護の実際を見学する					
(2) 看護師の行動の意味について述べることができる					
(3) 患者と話をすることができる					
(4) 患者の思いや反応に気付くことができる					
5) 基本的な実習態度を身につける					
(1) 相手に好感を与える態度や身だしなみを整える					
(2) 相手を尊重した言動がとれる					
(3) 患者や関わる医療従事者の話を真剣に聞く事が出来る					
(4) 患者の情報を他にもらさないように管理する					
(5) 助言や指導内容について謙虚に受け止める					
(6) 疑問点について、文献や資料を活用し問題解決にあたる					
(7) 実習に必要な自己学習や自己演習を行う					
(8) 時間を厳守し、提出物の期限を守る					

Ⅲ. 実習方法

実習スケジュール

月	火	水	木	金
		1 日 目 (5/25)	(2 日 目) 5/26	(3 日 目) 5/27
		病院説明 病院内見学	病棟見学(病棟の配置と 物品等) オリエンテーション;患者 の入院生活の実際、患者 の特徴、病室環境	看護師の行動をシャ ドーイング(看護師に ついて一緒に動く)
		病院内の各部署から説 明を受ける ・栄養科・放射線科・検査 科・地域医療連携室・在宅 支援(訪問看護 ST・ケアプ ラン) ・看護部の師長、指導者 紹介と病棟の特徴紹介 病棟見学	病室環境を知る (測定・配置・物品) *患者にとっての「生活し やすい環境」について考 える 3 年生との交流(実習での 学び方)	患者とのコミュニケー ション 看護師の行動の意味に ついて考える
		行動計画 実習記録 病院シート	行動計画 実習記録 療養環境シート	行動計画 実習のまとめ 実習記録 コミュニケーション記録

Ⅳ. 評価方法

実習内容 70点

態度評価 30点 合計100点

Ⅴ. 評価表 (別紙参照)

Ⅵ. 参考文献

基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ (メディカ出版)

看護概論 (メディカ出版)

プラクティス (学研)

考える基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ (ヌーベルヒロカワ)

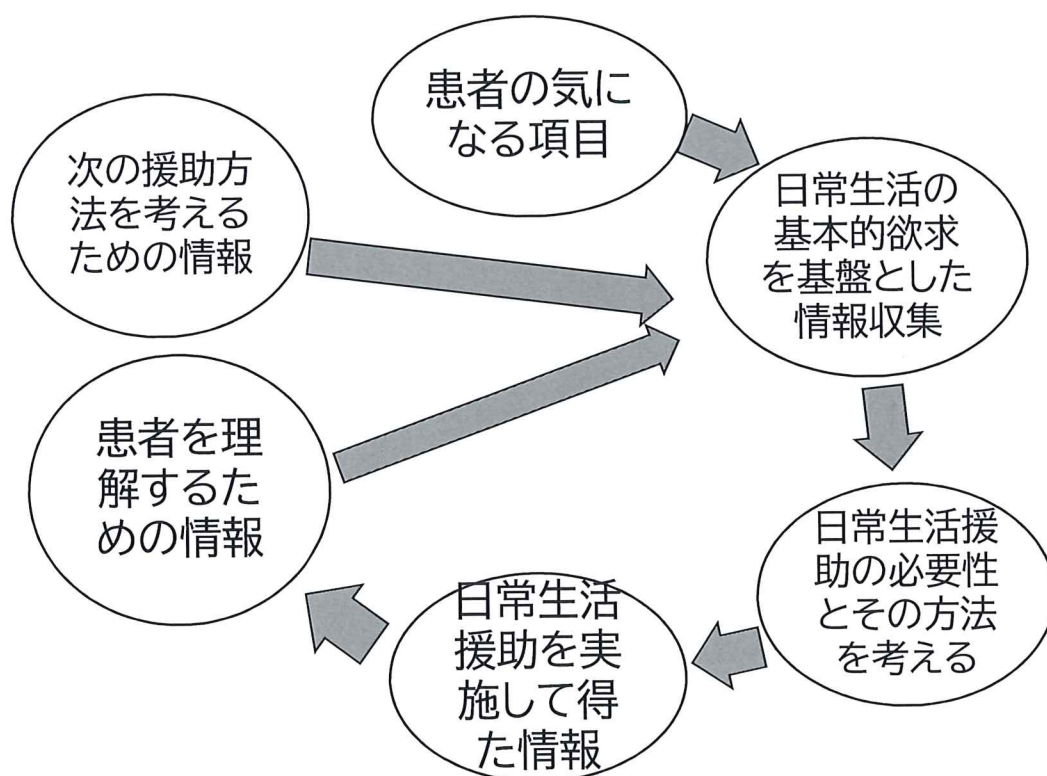
フィジカルアセスメントブック (医学書院)

実習名	基礎看護学実習Ⅱ	実習施設	朝倉医師会病院 朝倉健生病院 甘木中央病院	実習年次： 1 年次	
				期間	単位(時間数)
				4.5 日間	1 単位 (45 時間)
実習目的	患者の日常生活におけるニーズを理解し、患者に適した生活援助を行うための考え方を学ぶ				

目標及び行動目標

1. 実習目標

- 1) 患者の健康障害や状況が日常生活の患者のニーズに及ぼす影響について理解できる
- 2) 患者に必要な援助に対し、患者の状態やニーズを考慮した技術の方法を考えることができる
- 3) 患者に安全な看護技術を提供することができる
- 4) 行った看護技術をリフレクションすることができる
- 5) 患者と援助的人間関係を築くことができる
- 6) 看護者として責任のある行動を身につけることができる



今回の実習のイメージ図

II. 行動目標

- 1) 患者の健康障害や状況が日常生活の患者のニーズに及ぼす影響について理解できる
 - ① ベッドサイドで気になることを見出すことができる
 - ② 報収集として気になる項目から基本的欲求につなげている
 - ③ 日常生活援助で知り得た情報を患者理解につなげている
 - ④ 招集した情報の分析・解釈に「常在条件」「病理的状态」を加味している

- 2) 患者に必要な援助に対し、患者の状態やニーズを考慮した技術の方法を考えることができる
- ①患者に行われている日常生活援助の目的を理解できる
 - ②立案された援助計画は収集した情報を考慮した内容である
 - ③夜勤帯や朝の情報をとりいれ、援助計画の見直しをできる
- 3) 患者に安全な看護技術を提供することができる
- 4) 行った看護技術をリフレクションすることができる
- ①日常生活援助を理にかなった方法で実施している
 - ②日常生活援助の実施に当たっては援助計画に基づいて安全、安楽に行える
 - ③日常生活援助の実施前中後で患者の状態や反応を観察している
 - ④患者の反応から実施した日常生活援助技術の良かった点を見出すことができる
 - ⑤援助計画と実際行った援助の違いから、実際に実施したかった援助とそれができなかった要因を明らかにできる
- 5) 患者と援助的人間関係を築くことができる
- ①患者に関心をもって接することができる
 - ②患者の言動や反応の意味を考えることができる
- 6) 看護者として責任のある行動を身につけることができる
- ①看護学生として望ましい行動ができる
 - ②保健医療チームの一員として自覚と責任ある行動がとれる
- (適切な報告・連絡・相談ができる)
- ③患者の個人情報保護を考え、行動できる
 - ④他者を尊重する(思いやる)ことができる
 - ⑤医療安全を考慮した行動をとることができる
 - ⑥実習目標・行動目標に沿って自己の評価ができ、計画的に行動できる

III. 実習方法

実習スケジュール 下記参照

実習期間中のスケジュール

	(1日目)	(2日目)	(3日目)	4日目	5日目
	病棟オリエンテーション 受け持ち患者紹介 情報収集(解釈・分析) 日常生活援助の見学 (シャドウイング) <u>気になる項目の発 表</u>	情報収集 日常生活援助の実施 <u>援助技術の振り返り</u>	日常生活援助の実施 情報の追加	日常生活援助の実施 情報の追加 <u>学びの共有会</u>	AM <u>経験したことのまとめ</u> *患者への看護を実施 するための思考過程を 振り返る 情報の分析・解釈は必ず 記載しておく
当日 提出	1日行動計画表(毎日) 援助記録(バイタルサ イン測定で記載)	1日の行動計画表 援助記録 受け持ち患者記録	1日の行動計画表 援助記録(2回目の 実施の場合 No2 用 紙) 受け持ち患者記録	1日の行動計画表 援助記録(2回目の実施 の場合 No2 用紙) 受け持ち患者記録 実習のまとめ	1日の行動計画表 受け持ち患者記録
毎日 持参	事前学習(毎日)	事前学習(毎日)	事前学習(毎日)	事前学習(毎日)	事前学習(毎日)

IV. 評価方法

実習内容 70点
態度評価 30点 合計100点

V. 評価表（別紙参照）

VI. 参考文献

基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ（メディカ出版）
看護概論 （メディカ出版）
プラクティス（学研）
考える基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ（ヌーベルヒロカワ）
フィジカルアセスメントブック（医学書院）

実習名	基礎看護学実習 Ⅲ	実習施設	朝倉医師会病院 朝倉健生病院 甘木中央病院	実習年次： 1 年次	
				期間	単位(時間数)
				9 日間	2 単位 (90 時間)
実習目的	1 看護過程の思考のプロセスを使い、患者に必要な看護の提供を行うための考え方がわかる				
目標及び行動目標					
I. 実習目標 1) 患者の情報をヘンダーソン看護論の枠組みを使ってアセスメントし、その関連性の中で患者を理解することができる 2) 患者の健康、生活上の課題を把握し、必要な看護介入を行うことができる 3、患者の状態・状況に応じたコミュニケーションを考え実践できる 4、看護職として責任のある基本的な行動を身につけることができる II. 行動目標 1) 患者の情報をヘンダーソン看護論の枠組みを使ってアセスメントし、その関連性の中で患者を理解することができる (1) 患者の情報を収集し、ヘンダーソンの看護論の枠組みに沿ってアセスメントし、患者の全体像の描写ができる ①受け持ち患者の発達段階と日常生活の特徴を観察できる ②受け持ち患者の健康障害の種類と段階を理解し、健康障害や治療が日常生活に及ぼす影響を観察できる ③受け持ち患者の療養生活に対する認識や心情について観察できる ④受け持ち患者を観察して得た情報をヘンダーソンの看護論の枠組みで整理、解釈・分析し、基本的欲求の充足・未充足を明らかにする ⑤14 の基本的欲求の関連性を確認し、患者の全体像を説明できる ⑥看護上の問題を抽出し、期待される成果の設定ができる 2) 患者の健康、生活上の課題を把握し、必要な看護介入を行うことができる (1) 患者の看護上の問題に対して期待される成果を明確にできる (2) アセスメント内容をふまえ、個別性を考慮した看護計画の立案ができる (3) 看護計画を患者の日常生活に取り入れて実践できる ①患者に必要な看護援助を科学的根拠に基づいて実施できる ②患者の反応を確認しながら実施できる (4) 実施した看護を評価できる (5) 実施した援助の内容、結果について報告・記録ができる 3) 患者の状態・状況に応じたコミュニケーションを考え実践できる (1) 患者の言動や援助中の反応を観察し、その意味を考えることができる (2) 患者の思いを尊重した態度で接することができる 4) 看護職として責任のある基本的な行動を身につけることができる (1) 看護学生として望ましい行動ができる					

- (2) 保健医療チームの一員として自覚と責任ある行動がとれる
- (3) 患者の個人情報保護を考え、行動できる
- (4) 他者を尊重する（思いやる）ことができる
- (5) 医療安全を考慮した行動をとることができる
- (6) 実習目標・行動目標に沿って自己の評価ができ、計画的に行動できる

Ⅲ. 実習方法

実習スケジュール

	(1 日目)	(2 日目)	(3 日目)	(4 日目)	(5 日目)
実 習 項 目	病棟オリエンテーション 受け持ち患者紹介 日常生活援助の実施 (シャドーウイング) 情報収集 気になる事項の検討 会 看護技術の実践	情報収集	情報解釈・分析（気がか り事項） 情報・記録の整理 情報の分析と解釈の学 習会	全体像（関連図 関連図・全体像の学 習会	看護上の問題の明確 化 期待される成果・到達 期限の設定の指導を 受ける 介入計画の立案につ いて指導を受ける 看護上の問題・優先 順位の学習会
当 日 提 出	1 日行動計画表(毎日)	1 日行動計画表(毎 日) 看護技術用紙 看護過程(アセスメン ト用紙) フェースシート	1 日行動計画表(毎日) 看護技術用紙 看護過程(アセスメント 用紙)	1 日行動計画表(毎日) 看護技術用紙 関連図・全体像	1 日行動計画表(毎日) 看護技術用紙 統合アセスメント、看 護上の問題を抽出(問 題リスト)
	(6 日目)	(7 日目)	(8 日目)	(9 日目)	
	看護計画発表 立案した介入計画を 病棟で発表する 看護計画の修正があ る場合→追加・修 正後に再提出 看護計画に基づいた 看護介入 看護技術の実践	看護計画の実施	看護計画の実施 評価発表と継続依頼 実習の学びの共有会	学内実習 経験したことのまと め ＊患者への看護を実 施するための思考過 程を振り返る ＊自分が行った看護 を評価し振り返る	
	経過記録	経過記録	評価 実習のまとめ		

事前学習(毎日)は常に持ってきておくこと。必要時、指導者や教員とともに知識の確認を行う

Ⅳ. 評価方法

実習内容 70点
態度評価 30点 合計100点

V. 評価表（別紙参照）

VI. 参考文献

基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ（メディカ出版）
看護概論 （メディカ出版）
プラクティス（学研）
考える基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ（ヌーベルヒロカワ）
フィジカルアセスメントブック（医学書院）